HUMAN NETWORK KOUSEN

ヒューマンネットワーク高専

赤とんぼ

1998.9 vol. 3

高専出身のOB・OGの躍進をめざして

設立趣意書

高専を最初に卒業した人たちが社会に出てから30年が経とうとしています。

この30年の間に技術の世界は、少年期から大人への時代へと大きく変化を致しました。私たちは時代と共に成長を致し、この間に安定した技術を身につけ、大勢の後輩に恵まれながら、いま高専創立の目的であった中堅技術者として、会社内でも一応の地位を確保するところまで来ました。そうして、私たちは毎日愛する人たちのために豊かな社会を目指し、美しい地球を守る技術者として誇りを持って頑張っています。

これは、一人ひとりが今日まで努力を積み重ねてきた賜であり、また同時に、この学ぶ礎を身に付けさせてくれた高専教育の成果でもあります。

一方、わが国はバブル経済の崩壊や産業の空洞化の問題を抱え、進むべき道を見いだせないまま足踏みをしています。政治、経済、教育いずれの分野の人たちも、本当の大人の時代の扉を押せずに困惑しているようです。また私たちも技術者をはなれてみたときには、社会の一員としての充分な知識や、行動力、人脈に豊かなものを持てないままにいます。こうした様々な問題が現在の私たちをとりまいており、その一つひとつに選択を迫られている時期と言えましょう。

そうした問題に対峙するには、個人の力の及ぶところではありません。私たちはエンジニアも人であり続けるために連帯が欲しいと考えます。

現在高専は全国に62校設置され、どなたの近くにもその門戸は開かれていますし、高専の門をくぐった者は30万名を数え、全国津々浦々あらゆる企業の第一線で活躍しています。この前線の人たちが、同じ青春を過ごし

た「高専に学んだ」というキーワードで、ひとつにつながれば素晴らしいと考えました。

15才から20才までの多感な時期を共有した高専のOB・OG達が、各々の出身校の枠をはずして、全国がひとつの高専ということで集合し、各地で産・学の創造研究に携わったり、地域における第一線の技術者による研修交流や経済交流をはかり、それぞれをネットワークでつなぎ、全国規模の活動にすることにより、大きな新しい力を生み出せると確信します。

また、この活動をとおして私たちや高専を社会にもっとアピールして、技術を志す若者に光明の指針を与えることができれば、高専の発展にも貢献でき、人の輪は厚くより強い力となり得るでしょう。

私たちは、心でつながった技術の21世紀を迎える準備として、1996年10月5日に全国各地から集まり、ヒューマンネットワーク高専を設立しました。

この会は全国の高専出身者によって自主的に運営され、まずはじめに地域毎の集まりを日常普段のつき合いの中から育て、さらに研修会、懇親会等を各地で計画し、それぞれをパソコンネットワークでつなぎ、相互に連携を持ちながら、高専を交えた中地域、全国規模の研究発表会、交流会等を通して人の輪を広げていくことにより、孤立した技術者からグローバルの意識を持った技術者集団への脱皮を計ろうというものです。

皆さまの入会を歓迎いたします。一緒に高専技術文化の花を咲かせましょう。

ヒューマン・ネットワーク　高専

入会申込用紙

登録　　年　　月　　日

コードNo.		高専　　期　　工学科			写真
氏　名		フリガナ			
現住所					
電　話		FAX			

個人情報	資　格
経　歴	
特　技	
趣　味	
その他	

勤務先			
所在地		〒	
所　属			
役　職			
電　話		直通電話	
FAX		携帯・自動車電話	

会社概要・他	業　種
業務概要	
その他	
Eメール	

会又は会員にメッセージが有りましたらご記入下さい。

記入が済みましたら下記へFAXして下さい。

『ヒューマン・ネットワーク高専』事務局

FAX 0268-42-6850

〒386-0403　長野県小県郡丸子町腰越2737-286

宮下和美　TEL 0268-42-5620

投稿・意見・求人・広告及び資料申込用紙　　年　月　日

会員の種類	正会員　特別会員　名誉会員 協賛会員　同窓会　非会員			
氏（フリガナ）名				
住　所	〒 電話	FAX	E-mail	
勤務先	電話	FAX	E-mail	
原稿 タイトル				
意見・原稿の別　写真・図表の数				
意見・求職「赤とんぼ」へ登載の有無				
資料請求の部数				

申込書送付先
〒386-04　長野県小県郡丸子町腰越2737-286
ヒューマンネットワーク高専　事務局　宮下　和美
TEL 0268-42-5620　FAX 0268-42-6850
miyahnk@cocoa.ocn.ne.jp

ヒューマンネットワーク高専のホームページ
goo「グー」 YAHOO「ヤフー」の検索キーワードは
[HNK]「ヒューマンネットワーク(高専)」です。
URL http://www.hnk.or.jp

ヒューマンネットワーク高専　会則

第1章　総　　則

（名称）

第1条　この団体は、ヒューマンネットワーク高専　本会則では以下「本会」という。

（事務所）

第2条　本会は、事務所を長野県小県郡丸子町大字腰越2737番地286に置く。

（目的）

第3条　本会は、会員相互の交流に努めると共に、科学技術及び社会の発展への貢献を行って、文化の向上及び高専制度の発展に資することを目的とする。

（事業）

第4条　本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

(1)　科学技術及び社会の発展に寄与する共同事業の場や情報の提供。

(2)　全国高専同窓会の活性化のための活動

(3)　講習会、研修会、講演会の開催。

(4)　機関紙の発行及び資料の刊行。

(5)　その他前条の目的を達成するために必要な事業。

（グループ支部）

第5条　本会は、幹事会の決議により、必要の地にグループ支部を置くことができる。

第2章　会　　員

（種別）

第6条　本会の会員は次の5種とする。（継続審議）

(1)　正 会 員　高専に在籍した者。

(2)　特別会員　科学技術、経済又は地域の発展事業に関係ある個人又は団体（各校の同窓会を含む）で正会員2名以上の紹介により入会した者。

(3)　賛助会員　高専の文部教官、文部事務官、文部技官その他特に幹事会で認めた者。

(4)　名誉会員　科学技術、経済又は地域の発展事業に関し、功績のあった者で幹事会が推薦し総会で承認された者。

(5)　協賛会員　本会の事業に協賛する企業と団体。

（入会）

第7条　本会の正会員又は特別会員として入会しようとする者は、入会申込書を事務局に提出しなければならない。

2．正会員の入会は、入会申込書提出と同時に所定の入会金及び会費を納入しなければならない。

（退会）

第8条　会員は、事務局に届けて、退会することができる。

2．会員が次の各号の1に該当するときは、総会の決議により除名することができる。

(1)　会則又は総会の決議に違反したとき。

(2)　本会の名誉を傷つけ、又は秩序をみだしたとき。

(3)　2年以上会費を滞納した者

（入会金及び会費）

第9条　本会の正会員として入会しようとする者は入会金10,000円を納入しなければならない。

2．正会員は、会費年額6,000円を納入しなければならない。

3．本会の特別会員は、会費年額一口30,000円を納入しなければならない。（継続審議）

4．既納の入会金及び会費は、返還しない。

第3章　役員 及び 職員

（役員）

第10条　本会に、次の役員を置く。

幹事　5名以上　35名以内　　監査　5名以内

2．幹事のうち、数名を代表幹事とする。

（代表幹事）

第11条　代表幹事は、本会を代表し、会務を統理する。

2．代表幹事は、相互に補佐し代表幹事の職務を行う。

3．代表幹事の選任は、幹事会において定める。

（幹事）

第12条　幹事は、幹事会を構成して、会務を議決し執行する。

2．幹事は、正会員のうちから総会において選任する。

（監査）

第13条　監査は、民法第59条に定める職務を行う。

2．前条第2項の規定は、監査を選任する場合において準用する。

（兼務の禁止）

第14条　幹事、監査は、これを相互に兼ねることができない。

（役員の任期等）

第15条　役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2．補欠による役員の任期は、前任者の残任期間とする。

3．役員は、辞任又は任期満了の場合においても、後任者が就任するまでは、引き続きその職務を行わなければならない。

（解任）

第16条　役員が、役員としてふさわしくない行為をしたときは、総会の議決により、これを解任することができる。

（役員の異動等）

第17条　役員が就任し、離任し、死亡し、その他の異動があったときはその旨を全会員に通知しなければならない。

（事務局）

第18条　本会の事務を処理するため、事務局を置く。

2．事務局には、職員若干名を置くことができる。

3．事務局の職員は、幹事会の決議により任免する。

4．事務局長は正会員の中から選任し、幹事とする。

第4章　会　　議

（総会）

第19条　総会は、正会員をもって構成する。

2．総会は、定時総会及び臨時総会の2種類とする。

3．総会の定足数は、正会員総数の10分の1とする。

（総会の招集）

第20条　定時総会は、毎年1回定時に、幹事会の決議を経て代表幹事が招集する。

2．臨時総会は、幹事会が必要と認めたとき、代表幹事が招集する。

3．正会員総数の5分の1以上にあたる者もしくは監査が会議の目的たる事項を示して総会の招集を請求したときは、代表幹事は1ケ月以内に総会を招集しなければならない。

4．総会を招集するには、期日より5日前までに書面をもって正会員にその旨を通知しなければならない。

5．前項の通知には、会議の目的たる事項を記載しなければならない。

（総会の議長、副議長）

第21条　総会の議長及び副議長は、その総会において出席した正会員のうちから選任する。

2．議長は、総会の秩序を保持し、議事を整理する。議長に事故があるときには、副議長がその職務を行う。

（総会の権能）

第22条　総会においては、別に定めるもののほか、次に掲げる事項について議決する。

(1) 予算及び決算の承認に関する事項。

(2) 毎年の事業計画の大綱に関する事項。

(3) 会則の改正に関する重要な事項。

(4) その他本会の運営に関する重要な事項。

（総会における議決）

第23条　会員の議決権は、正会員において各１個とする。

２．総会における議決は、この会則に別段の定めがある場合を除き、出席した正会員の議決権の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（代理表決）

第24条　総会に出席することのできない正会員は、他の出席者に表決を委任することができる。この場合において当該委任者は、前条第２項の適用については総会に出席したものとみなす。

（幹事会）

第25条　幹事会は、幹事をもって構成する。

（幹事会の招集）

第26条　幹事会は、必要に応じて代表幹事が招集する。

（幹事会の議長、議決）

第27条　幹事会の議長は、代表幹事をもってこれにあてる。

２．幹事会は、幹事現在数の３分の２以上出席しなければ、議事を開き議決することはできない。

３．第23条並びに第24条の規定は、幹事会における議決をする場合に準用する。

（幹事会の機能）

第28条　幹事会は、別に定めるもののほか、次に掲げる事項について議決する。

(1) 総会の議決した事項の執行に関する事項。

(2) 総会に付議すべき事項。

(3) その他会務の執行に関する事項。

（総会及び幹事会の議事録）

第29条　総会及び幹事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 開会の日時及び場所。

(2) 会員又は幹事の現在数。

(3) 出席者の数。

(4) 議事の経過の要領。

(5) 議決事項。

(6) 議事録署名人の選任に関する事項。

2．議事録には、議長のほか、出席者のうちから、その会議において選出された議事録署名人2名以上が署名捺印しなければならない。

第5章　資産 及び 会計

（資産の構成）

第30条　本会の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

(1)　会費

(2)　入会金

(3)　寄付金品

(4)　その他の収支

（決算）

第31条　本会の収支決算は、代表幹事が作成し事業報告書及び会員の異動状況書とともに監査の意見をつけ、年度終了後3ケ月以内に幹事会及び総会の承認を受けなければならない。

（事業計画）

第32条　本会の事業計画及びこれに伴う収支予算は、年度開始前に代表幹事が作成し、幹事会の議決を経て、総会の承認を得なければならない。

（会計年度）

第33条　本会の会計年度は、毎年5月1日に始まり、翌年4月30日に終わる。

第6章　会則の変更 及び 解散

（会則の変更）

第34条　この会則は、総会において出席正会員の4分の3以上の同意を得なければ、変更することができない。

（解散及び残余財産の処分）

第35条　本会の解散は、総会において正会員総数の4分の3以上の同意を得なければならない。

2．本会の解散に伴う残余財産は、総会において正会員総数の4分の3以上の同意を得て、本会の目的に類似の目的を有する公益事業に寄付するものとする。

第7章　補　　則

（委任規定）

第36条　この会則の定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は幹事会が定める。

付　　則

1．この会則は、平成9年7月1日から実施する。

ヒューマンネットワーク高専会誌「赤とんぼ」

目　　次

巻頭言　……井崎淳一郎 ‥‥ 1

特　集

1．ヒューマンネットワーク高専第2回定時総会報告 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 3

1．第2回定時総会報告‥‥‥‥‥‥‥‥‥

巻頭言

ヒューマンネットワーク高専代表幹事　井　崎　淳一郎（宇部高専）

ミシシッピー州ビロキシィー市の
福祉展示会場にて

ヒューマンネットワーク高専第２回定時総会は６月20日に開催されましたが、都合よく参加することが出来ました。というのも、海外出張の話が急に舞い込み、出発日と重なる状況にあったからです。

さて、ヒューマンネットワーク高専の輪は着実に広がっています。豊田、大分、長野の３つの学校の同窓会が加入して、強固な礎ができました。当方は代表幹事職を務めている立場から異業種交流の運営に参加しておりますが、この１年間に東京事務所の開設と利用の中止（長期間お借りできる予定でしたが平成９年10月末までの３ケ月間使用しました）や、東京事務所と閉鎖後は会員の勤め先を訪問する形での異業種交流を行ないました。

その中から、協同事業推進の具体例として、英国企業開発による福祉(痴呆患者)用通報システムの輸入と、ファーストフード店舗を主たる対象とした省エネ機器の販売と据え付け工事・関連機器の点検請負契約が取り組まれています。いずれもユーザーは全国に所在する為、日本各地に会員が居るヒューマンネットワーク高専に相応しい案件だと思います。

７月12日から８月13日までの33日間、カナダと米国を訪問して福祉商品に係わる企業と面談し、34社からサンプル商品を買い付けてきました。当該商品は、10月27日(火)～11月１日(日)の６日間、東京都社会福祉総合センター（飯田橋駅前）にて開催される新輸入製品商談会において展示され輸入企業の発掘が行なわれます。

これら企業のほとんどは従業員数50名以下の中小企業で、いわゆるベンチャービジネスです。自然および社会環境を背景にした物作りが営まれ、「シリコンバレー」に似せた工業団地が各地に設けられ、かつ自由な発想で新規市場を創出すべく鋭意研究開発を行なっている状況が伺えました。

ヒューマンネットワーク高専の会員諸氏には、同様のスピリットを持っている方々が多数おられます。

景気の停滞が長期化していますが、われわれの活力で明るい局面に導こうではありませんか。

特　　集

1．ヒューマンネットワーク高専
　　第２回定時総会報告

2．ヒューマンネットワーク高専の
　　運営について、高専制度に関する
　　提案紙上討論会

1．ヒューマンネットワーク高専　第２回定時総会

式　次　第

1998年６月20日(土)

於：はあといん乃木坂　東京都港区南青山1-24-4　(03)3403-0531

議　事

1）　祝辞　　PM 1:30 ～ 1:35
　　日本高専学会　都立航空高専教授　　石井　　好　様

2）　講演　　PM 1:40 ～ 2:00
　　「最近の高専生と高専の将来」　教育現場からの報告
　　講師　　高橋　　薫　様
　　豊田高専電気工学科11期卒
　　豊田高専　英語科助教授　（マンチェスター工科大留学経験）
　　（新人）ノンフィクション作家

3）　第２回定時総会　PM 2:00 ～ PM 3:00
　　(1)　経過説明
　　(2)　決算報告
　　(3)　事業計画、役割分担

4）　全体討議　PM 3:00 ～ PM 6:00
　　(1)　事業交流報告及び提案
　　平田　光春（都城高専）
　　藤嶋　俊哉（函館高専）
　　(2)　同窓会の活性化とヒューマンネットワーク高専の役割
　　竹下　鉄夫（豊田高専）
　　西岡　建雄（高知高専）
　　青木　繁美（大分高専）
　　尾上　良明（都城高専）
　　新保　則夫（長野高専）
　　(3)　高専制度の今後のあり方に関する研究会への具申案
　　石山　彰雄（富山高専）

5）　懇親会　　PM 6:00m ～ PM 9:00

ヒューマンネットワーク高専　第２回定時総会議事録

総合司会　藤嶋俊哉　只今よりヒューマンネットワーク高専第２回定時総会を開催いたします。昨年は台風という天気でしたが、今年は天候にも恵まれました。はじめに井崎淳一郎代表幹事よりご挨拶をお願いいたします。

代表幹事　井崎淳一郎　早いものでもう１年が経過しました。昨年の創立総会も同じ時期に開催されました。当日は台風の影響で、到着の遅れた方々もおられましたが、全国各地から駆けつけられた17校・36名の皆さんと昼からの戸外の強風の推移を感じる中で討議を行いました。

今年は、打って変わって夏の陽気の下での総会となりました。

まだ女性が見えませんが、本日は女性２名の参加を得て、昨年を上回る45名が出席される予定です。

本日の討議内容は配布済み資料に紹介しております。皆さんの積極的・建設的な討論をお願いすることとして代表幹事から冒頭のご挨拶といたします。

司会それではご祝辞を日本高専学会の石井　好教授にお願いいたします。石井教授は東京都立航空工業高等専門学校の電子工学科を担当しておられます。

石井好教授　副会長をされている吉田喜一先生が所用で都合が付かないということで私が参りました。私は高専で学生を教える立場にあるものですが、高専の特徴は「早期技術者教育」にあると思います。

高専の一般的評価は、一般教育がない・文系に弱い・以前より勉強をしなくなった・体力がない等々、言われていますが、実際の高専生は他の大学生などと違い勉強に疲れていない。

高専教育のといいますか、高専だから出来る「身を持って体験できる教育環境」というものを考えますと恵まれていますし、「技術立国日本」を考えますと、また是非ともなくてはならない教育機関であると思います。高学歴社会という日本の風潮が工業高校をダメにし、今また、高専教育をダメにするような兆しがありますが、日本国じゅうが国語と社会科だけを勉強してきた人だけで成り立って行くでしょうか、青年の早期の内に技術を身につける、「技術立国日本」を支えるための教育が今正に必要とされているときだと思います。

そういう意味で高専が見直されなければいけない時に、ヒューマンネットワーク高専・日本高専学会の発展は、意義深いものがあります。お互いに交流を深め、連携を取り合って発展を目指したいと思います。

本日はおめでとうございました。

司会　ありがとうございました。

次に、豊田高専電気科11期卒で、名古屋大学を経て名門女子高校で教鞭をとられ、また、マンチェスター工科大学に留学され、現在、豊田高専一般科で英語の助教授をされ、最近、新人ノンフィクション作家としてもデビューされた高橋　薫先生にお願いいたします。

講演

「最近の高専生と高専の将来」　教育現場からの報告

豊田高専　英語科助教授　高橋　　薫

高橋薫　ご紹介いただきました高橋でございます。

私は高専教育の現場からみた高専教育の現状をお話ししたいと思います。　今高専に入学してくる中学生は「オール３～オール５」が入学してきます。そんな幅が全国的にあるようです。

豊田高専では年々入学志願者が減少してその対策として、夏休みの学校見学会・中学への学校説明会などと志願者確保に努力をしているのが現状です。実際は大学生よりも高専生の方が専門科目に対しての勉強は量的には多くしていると思います。今日の後半の討論会に代表幹事の石山さんの方から提案がありましたように、高専生の修学の単位数からしてももっと意欲のでる待遇にしても良いのではないかと思います。

別の問題として豊田高専は全寮制のため志願率が低いのかとも考えてしまいます。また　高専からの進学率は20～30％が編入などによって大学へ進学しています。以上が現場からみた高専の実態です。

尚　私事で恐縮ですが今度、教育現場における「先生のいじめ」ということで妻のことを教育現場における実体験として、東京の出版社より出版し、新人ノンフィクション作家としても期待され頑張っています。

司会　どうもありがとうございました。

続きまして第２回定時総会に移りたいと思います。ここで議長を長野高専４期卒の横澤由明さんにお願いしたいと思います。

議長　横澤由明　長野高専４期の横澤です。

これより第２回定時総会に入らせて頂きます。先ず井崎淳一郎代表幹事に経過報告をお願いします。

経過報告

井崎淳一郎　昨年第１回総会の後に東京事務所の話が持ち上がりまして、赤坂の地に於いて３ヶ月10月末まで、利用させていただきました。その間、事務所の開設披露、週２度の集会等を致しまして、長野の松原光昭会員を中心に、インターネットの交信を目指して、ホームページの立ち上げ等に努力し、HNKのロゴマークを都城の尾上良明さんに作ってもらいました。色は皆さんで着色すると云うことで、今は無色です。みんなで考えて良い色に染めていきましょう。

その後、東京では、月２回程度、会員の事業所訪問という形式に換え、有志の事業所を訪問しその後懇親会を持つようにしました。詳細はホームページに乗せてあります。活発な活動が出

来たと考えています。

全国的には、1997年11月に豊田高専が同窓会として入会する事を決議し、引き続き1998年４月には大分高専が同窓会入会を、５月には長野高専が、入会決議をしてヒューマンネットワークへの参加を伝えてきました。すでに同窓会として、バックアップを表明している高知高専、入会を検討中の都城高専と、流れは大きくなって参りましたところの本日の総会です。以上が大雑把の経過報告です。

決算報告

議長　次に決算報告を宮下事務局長からお願いします。

宮下和美　まことに申し訳ないことですが、昨今の不況で活動が活発に出来ませんでした。そのことが、収支に現れております。これまでは懇親会を多く開催して、皆さんを酔わせてカンパ金を戴くという方式を採っておりまして、宮下にだいぶ巻き上げられた方がこの中にも何人かおられます。

ヒューマンネットワーク高専がメジャーになりつつある中で、こうした集金方法を改めなければと考えたこともあり、また昨年度は、大きな集会をもてなかったこともあって、ご覧のとおり赤字になっております。入るを計るという時点で問題があり、出づるを制する部分でも誤りを犯し「赤とんぼ２号」を刷り過ぎてしまいました。2,000部刷りまして、現在約1,000部残っていますので失敗でした。何とかお金に換えたいと思い１部1,000円としてみましたが、60部換金できただけです。難しいものです。

しかしながら、支出の項目は総会費用と通信費、印刷代だけです。通信費は郵送料のみで、それもみなさまのお手元に届いた郵便の内、切手を張らずにまとめて出したものだけが計上されています。記念切手が張られたものがほとんどですが、妻の趣味が切手収集であったのが幸して、机上より失敬したものです。私の事務所にインターネットが入っていますので、メールのやりとりで、電話代はだいぶ掛からなくなりまして助かりました。通信には、こうした方法を採用していきたいと思っています。

いずれにしましても、収支が健全になるよう研究をしていただきたいと思います。

ヒューマンネットワーク高専

平成９年度　収　支　報　告　書

H9.6.23～H10.4.30

収入の部　　1998年６月20日

科　目	金　額	備　考
繰越金	258,948	
会費	387,000	入会金，Ｈ９会費
会誌代	60,000	長野同窓会，他
総会会費	150,000	第１回定時総会
その他事業	130,000	ホームページ作成
篤志金	22,585	東京懇親会残金，他
借入金	600,000	
利子	303	
合計	1,608,836	

支出の部

科　目	金　額	備　考
会議費	371,782	第１回定時総会
通信費	127,320	郵送料
振込手数料	4,160	
印刷代	723,450	赤とんぼ２号2,000部
繰越金	382,124	
合計	1,608,836	

平成９年度監査報告

上記年度の会計帳簿、領収書等を照合監査の結果、正確に処理されていることを認めます。

平成10年６月20日

監査　成岡　峯　男　印

監査　降旗　喜美男　印

議長　いつもながら雑ぱくな会計報告でした。ご苦労様でした。

会計監査を新居浜高専の成岡峰男さんにお願いしました。

成岡峯男　先ほど総会に先立ちまして、会計監査を致しまして、帳簿、通帳等提示・説明を受けましたが、正確に処理されておりましたこと報告いたします。

議長　決算の承認をしていただけますなら拍手でお願いいたします。（拍手　承認）

事業計画

議長　次に事業計画について田玉治實代表幹事よりお願いします。

田玉治實　先程決算報告でもありましたように、会計的には非常に苦しいわけですが、同窓会などの会費の件、個人の会員及び会費の考え方など色々問題はありますが、同窓会などの特別会費は従来のように３万円、経費として３万円程度をで考えていただき、計６万円各同窓会でお諮り願えればと思います。一般会員の増加と言うことでこの会期に限り、入会金無料年会費6,000円と言うことで会員の更なる増加を計りたいと思います。

またインターネットを通じた通信手段の選択、高専生＝技術者としては必要不可欠な情報手段として導入を進めてもらう。会計上の負担とならない為にも是非これをして欲しいと思います。今日出席者でインターネットを利用できる人は挙手願いたいと思います。（半数の人が挙手）

だいたい半数の人が利用されているようですが、各自努力して欲しいと思います。

（この後、インターネットの状況について、各高専同窓会のホームページの様子を宮下事務局長説明）

事業計画ですが、いよいよ会勢も増加に転じて参り、方針を定めていかなければいけない時ですが、同窓会の動向、本日この後提案される高専制度の問題等議論を戴いたところでまとめていきたいと思います。

議長　どうもありがとうございました。

今後の議論に掛かる含みのある提案ですが、ここまでのところを承認いただいて、総会の前段を終了します。（拍手承認）

総合司会　藤嶋俊哉　次の討議に入る前に各自の自己紹介をお願いしたいと思います。

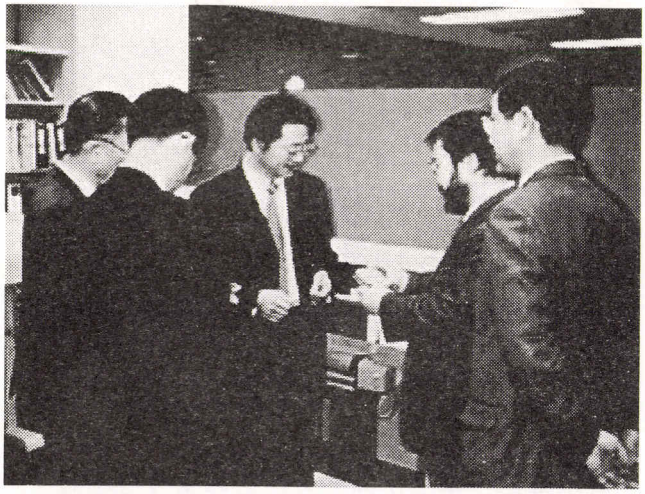
各参加者自己紹介（略）

ヒューマンネットワーク高専第２回定時総会　出席者名簿

	高専	期	科	氏名	勤務先	電話．勤務先
1	函館工業	1	機械	藤嶋　俊哉	㈱エフ・アイ・ティー	044-852-7011
2	旭川工業	14	機械	田川　裕則	クボタシステム開発㈱	03-5562-6267
3	旭川工業	2	機械	村中　武美	フシマン㈱	03-3743-3214
4	一関工業	8	機械	小野寺　智	㈲グリーンフィールド	0423-80-7071
5	富山工業	3	機械	石山　彰雄	石山司法書士事務所	0764-21-8061
6	長岡工業	1	電気	阿部　和之	阿部電気商会	0258-82-6513
7	豊田工業	3	電気	竹下　鉄夫	豊田高専　情報工学科	0565-35-4359
8	豊田工業	11	電気	高橋　　薫	豊田高専　英語科	0565-35-4269
9	鈴鹿工業	6	電気	北村　　登	鈴鹿高専　電気工学科	0593-68-1797
10	広島商船	2	機関	井手　龍太		0427-96-7553
11	宇部工業	2	電気	井崎　淳一郎	日商岩井㈱	03-3588-3631
12	宇部工業	2	電気	渡部　正義	ヘルパーサービス㈱	0489-57-1774
13	宇部工業	2	電気	多田　允建	NTT-TE東京NWS事業部	03-5470-9100
14	宇部工業	17	化学	池上　寛明	㈲オーガニック	03-5998-3340
15	高知工業	8	電気	西岡　建雄	㈱プレゼ・２１	0888-75-2100
16	大分工業	1	電気	青木　繁美	自営	0975-68-8176
17	大分工業	9	機械	大平　利彦	ソニー生命保険（株）	0975-32-9200
18	都城工業	1	電気	坂本　和夫	NEC国内販売推進本部	03-3798-6323
19	都城工業	2	機械	尾上　良明	㈲オフィスユキ	03-3477-7261
20	都城工業	6	建築	平田　光春	ウェルテック設計事務所	045-623-9832
21	都城工業	2	化学	碇山みち子	東京大学工学系研究科	03-3812-2111
22	都城工業	6	建築	倉山　千春		0298-51-6940
23	都城工業	2	電気	佐藤　吉孝	東京ｴﾚｸﾄﾛﾝﾃﾞﾊﾞｲｽ　㈱	03-3251-0048
24	都立工業	3	機械	小林　　隆		03-3368-7904
25	福井工業	1	化学	藤本　武則	自営	0778-62-1409
26	新居浜工業	4	電気	成岡　峯男	日立エーアイシー㈱	03-3490-6481
27	明石工業	10	電気	合田　徹	ダイダン　㈱	03-3231-7211
28	長野工業	5	土木	新保　則夫	長野県佐久地方事務所	0267-63-3111
29	長野工業	7	土木	永藤　壽宮	長野高専　環境都市工学科	026-295-7098
30	長野工業	1	機械	田玉　治實	日本マグネックス　㈱	0268-26-1455
31	長野工業	1	電気	上原　長夫	山武ハネウェル　㈱　伊勢原工場	0463-91-9549
32	長野工業	2	機械	有賀　健一	㈱　有賀技建	0268-24-6888
33	長野工業	3	機械	白倉　英一	㈱エアーサプライ	052-261-1438
34	長野工業	3	機械	宮下　和美	宮下和美土地家屋調査士事務所	0268-42-5620
35	長野工業	4	機械	横澤　由明	松下建設　㈱	0424-92-4416
36	長野工業	4	機械	今井　俊行	㈱　蓼科管業	0267-56-3128
37	長野工業	4	電気	内藤　芳雄	富士通カストマエンジニアリング㈱	045-474-2497
38	長野工業	4	電気	降旗　喜美男	㈱エフ・アンド・オーシステムズ	0263-72-8288
39	長野工業	9	電気	松原　光昭	システムＰＡＬ㈱	0268-23-4688
40	有明工業	1	機械	有馬　慎一	NKKプラント建設　㈱	045-505-7963
41	日本高専学会			石井　　好	東京都立航空工業高等専門学校	03-3801-0145
42	宇部工業	17	化学	天野　修臣	松下電器産業（株）	06-905-4860
43	長野工業	4	機械	大工原　泰	ミネベア　㈱　　軽井沢製作所	0267-32-2200
44	熊本電波			山隈　瑞樹	労働省産業安全研究所	

全体討議

(1) 事業交流報告及び提案



司会　白倉　英一　次に全体討議に入りたいと思います。司会は長野高専3期の白倉です。よろしくお願いいたします。

先ず、事業交流報告及び提案ということで、都城高専の平田さんお願いします。

平田光春　私は設計事務所を横浜でやっています。自分の親が痴呆症にかかり色々苦労していますが、なかなか良い方法がありません。そんな折に代表幹事の井崎さんにお会いし、相談しましたところ日商岩井で扱っている商品に、患者がベッドから離れると、圧力の変化で警報を出す装置があるということで、実験をしています。（カタログを会場に回す）なかなか難しく、肉親に対し実行するところまではまだいっていませんが、異業種の方と話してみると、自分では気が付かなかった事も、方向が違えば既にあったり、また何かに利用できる物が意外にもあることに気付き、これも異業種交流の成果だと思っています。

司会　痴呆などの問題はこれから益々増え、誰もが避けて通れない問題だと思います。異業種交流などを通じ色々検討する必要を感じます。次に藤嶋代表幹事からお願いします。

藤嶋俊哉　今、マクドナルド、ＪＡなどの電気設備を定期点検する組織を作りつつあります。これは、電気事業法の改正で、電力を自分で供給できるようになり、全国展開のチェーン店などでは、自前の電気発電装置を取り付けた方が経費削減になります。そこで、マクドナルドの設備を受注し、設置のサポートを全国的に行おうという話で、高専のネットワークの組織を生かし、全国のネットができれば理想だと考えています。

司会　なかなかビジネス性のあるお話でした。ご賛同できる方は検討してみては如何でしょうか。

(2) 同窓会の活性化とヒューマンネットワーク高専の役割

司会　次に同窓会の活性化とヒューマンネットワーク高専の役割について伺いたいと思います。先ず豊田高専の竹下さん、出席予定でしたが都合により欠席のため、先程講演いただきました高橋先生の方からお願いします。

高橋薫　豊田高専では定期的に同窓会誌を発行し1部3,000円で売ることで、経費をまかなっています。

同窓会活動は高専出身の先生が中心となり運営していて、ヒューマンネットワーク高専への

同窓会としての参加も、岡本前同窓会長の説明ですぐ参加を決めました。

司会　次に高知高専の西岡さんお願いします。

西岡建雄　私はヒューマンネットワーク高専が公的にどのような立場（地位）にあるのかよく分かりませんが、それが、同窓会のように公的な機関であればどんなに会費を出しても良いと思っています。例えば20億位を集め高専会館を造るとかそんなことが出来ないか、他の高専の意見も聞きながら検討してみたいと思います。

また、高専の活性化ということでは１桁代会長から２桁代会長にバトンタッチし、若い世代に移行をスムースに行かないか検討しています。その１つとして「懸賞」を付けて会報などを出すことを考えています。

司会　有り難うございました。次に大分高専の青木さんお願いします。

青木繁美　本会が同窓会とどのような位置関係にあるのかまだよく分からないのが現状ですが、ヒューマンネットワーク高専の会員として参加しています。

高専の同窓会が活性化するために教職員は手を出さないようにしています。また、本会が高専をまとめ切れるかは判りませんが何かそんなものが必要と思っています。と同時に高専の改革も考えていって欲しいと思います。

司会　有り難うございました。次に都城高専の尾上さんお願いします。

尾上良明　同窓会としてはまだヒューマンネットワーク高専に参加して居ませんが、今日こういう話になるのでしたら会長を連れてくれば良かったです。（笑い）

参加の件は同窓会に立ち返り返答をさせて貰うこととし、当校の同窓会の活性化については、「深山会」という会誌を通じ同窓会の動向を知らせあっています。（会場も配布された新聞をみて一同感心）

その成果だと思いますが、本日の出席者は一番多いのではないかと思います。（笑い）

司会　有り難うございます。次に長野高専の新保さんお願いします。

新保則夫　この５月より同窓会に関わることになりましたが、学校卒業以来20数年間、同窓会活動に全く関わってきておりません。そんな私がなぜここで関わるようになったか、まず話しをさせて頂きます。

私は民間企業に入社した後、Ｕターンで県職員となりました。現在県職員の中に占める長野高専卒業生は昨年で130名を越えております。10年前になりますか、長野高専卒業生で「しな

の木会」という組織を作り、以来、年一度の総会と会員名簿の作成を行ってきております。現在、私はその会長を努めております。

行政の分野においても人と人との繋がりが非常に役立つことは変わりありません。年一回の総会には約半数の出席者があり、親睦を深めることが主ではありますが、情報交換等も活発に行われております。

この「しなの木会」の昨年の総会に、皆さま御存知の長野高専同窓会　舞田会長に出席頂きました。そうしましたら、舞田会長曰く、「しなの木会の総会の方が本校の同窓会のそれよりも参加人員も多く盛大である」続いて「長野市という立地にありながら、この「しなの木会」が本校の同窓会に寄与せずして良いものか！」と、まあこのような経過かございまして、本年度から本校の同窓会活動に協力していくということで、本日参った訳であります。

そういう訳でありまして、長野高専の同窓会の活動等について、まだ良く知ってはおりません。先生並びに先輩諸氏にお話し頂くべき事と思いますが、隣の永藤先生がメモを用意してくれましたので、読ませて頂きます。就職講演会、同窓会総会，進学講演会、海外学生派遣援助、全国高専大会出場援助、同窓会名簿発行、ホームページの開設・更新等を行っております。会費は終身会費１万円で入学時に徴収しております。次に先程来より話しの出ております、同窓会の活性化についてですが、私個人の意見でありますが、男というものは何等かの目的がなければなかなか行動を起こさないということ。視点を少し変えてみれば、小中学校のＰＴＡ活動にもその傾向がみられますが、活動の殆どを奥さんにやらせて旦那はやらない。男がやる程の事でない。仕事が大事でそんな事やっていられない等々。そういう線上に同窓会も置いているのではと思います。ですから通常の同窓会に大数が参加し活発な同窓会が開催される筈がない、そうなります。

しかし、高専が高等教育機関の名門校として認知されるようになれば、またそれが予備校化した高専であっても、並居る普通高校を凌ぐ結果をだしていれば、同窓生同志の共通の話題が生まれ、同窓会にもたまには出て見ようかという心境の変化も期待できるかと思います。

司会　参加者全員のご意見をお聞きしたいのですが時間がございませんので、前回参加できず今回が初参加という長岡高専・福井高専・鈴鹿高専・広島商船・都立高専の方に意見をお聞かせ願いたいと思います。先ず長岡高専　阿部さんお願いします。

阿部和之　同窓会は３年に１回開催しています。会費は学生・先生などの寄付によって賄っています。全同窓会が全員参加できるような何かが欲しいと思っていました。

司会　次に福井高専　藤本さんお願いします。

藤本武則　私たちの同窓会費は入学時に取ってしまうので問題はありません。高専の仲間として一同に会して何かできる組織が欲しいと思っていました。盛り上げていきたいと思います。

司会　次に鈴鹿高専の北村さんお願いします。

北村登　ヒューマンネットワーク高専への参加は検討したいと思います。同窓会費は５年生の時他の費用と一緒にまとめて集めてしまいます。又同窓会名簿は５年に１度改修しています。

司会　次に広島商船　井手さんお願いします。

井手龍太　こんな大事な話になるとは思わなかったので気軽に代理で参加しましたので、同窓会の様子は報告できません。今度から会長を出させます。（大笑い）

司会　次に都立高専の小林さんお願いします。

小林隆　私は、会社もやっていますが、母校で教えても居ます。ヒューマンネットワーク高専ということで同窓会としてでなく、個人の資格で入り、技術交流会という形とか、そういうものに興味のある人が集まることで良いではないか、今の時期、時期的には良いと思います。

司会　どうも貴重なご意見有り難うございました。

色々な意見が出ましたが今回参加された会長さん、代表の方、たち返りご検討を頂き、本日の熱意を是非同窓会にお伝え願いたいと思います。

(3)　高専制度の今後のあり方に関する研究会への具申案

総合司会　藤嶋俊哉　高専制度の在り方という事で文部省で検討会が開かれています。そこで高専としての案を提出できればとと思っています。次に「高専制度の在り方に関する研究会への具申案」と言うことで長くこの主張をされておられます石山代表幹事にお願いします。

石山彰雄　次のような私案をみなさまに提案致します。

私の、昨年の高専制度に関する意見表明は、高専制度の外観（表面）上の仕組みについて見解を述べたものです。

高専教育の中身については、教官の資質の問題や、教育者なのか研究重視なのか、という内的な議論はむしろ卒業生よりは、教官なり教育関係者が積極的に改善すべき問題であり、O.B.としては、基本的な制度上の問題に絞り議論をするしかないのではないでしょうか。

敢えて言わせてもらえるなら、教官の資質については、学生が授業に興味をもち、もの造りの出来る教官が良いのに決っています。

研究者か、教育者かという議論は、当然に教育者であって研究者であって欲しいのです。専攻科設置に博士号取得が必要であるならば、取得してするのが教官の義務であり責任でしょう。

それを時間がないから教育がおろそかになる等をいうのは少し違うと思います。

教官の人員が少ないというなら、予算づけの要求をすればは良いのです。それらを改善してゆかなくて専攻科不要論を教官が発言しているのは、本末転倒でないかと私には感じられます。

いずれにしても、いかに優秀な生徒を多数集めるか、将来の日本を背負って立つ超一流の技術者を育てるには、やはり優秀な生徒を集めることが初歩的で当り前のことでないでしょうか。

では、優秀な生徒はどこへ行くか。言わずと知れた外観的にも内的にも学問のしやすい、そして社会的評価のある学校に集まるのが当然のことです。

現在の高等専門学校にそれがあるのか？

無いとすれば、どこにないのか？

いま、我々卒業生が実社会で高専というものを鳥瞰的に見て、「このままでいいのか」という単純な発想から、改善すべきところがあるとすれば、O.B.の責任として声を出すべきです。

それが後輩への思いやりであり、我々自身にも繋がるものであると確信するものです。

原則的な的を絞った言い方をすると、文化系高専は不要で、大学への編入は正道ではないと思います。総花的な高専制度は、高専を希薄なものとし、総合大学化させてしまいます。むしろ、技術者養成機関としての位置を明確にすべきでしょう。

現在は、大学編入もやむを得ないところもあるかもしれませんが、そうした場合でも、高専は大学の専門課程以上のことを実践しているわけですから、３年次への編入でなく、大学院へ進めるよう考えるべきでしょう。

高専から大学編入の優秀性、経済性を売り物にするなど、悲しいことです。もしこれを言うなら、そうした制度をこそ改革されなければならないと思います。

こうしたことを考えて、高専同窓会の全国組織を作りたいと思っていましたが、それとヒューマンネットワーク高専との関係を探っています。

司会　何か意見がございませんか。

新居浜　成岡峯男　公的な組織の意見でないと役所には通じませんので署名を集めて実施する事が必要です。

石山彰雄　高専制度の位置について、プリントのような考えで有ります。但し、ヒューマンネットワーク高専と同窓会連合会については、ヒューマンネットワークがあって初めて今回の会合がありますので、同窓会連合一辺倒と言う考えからは多少違ってきたような気がします。

司会　石山さんの私案という形でご提案頂きましたが、先ほどご挨拶を頂きました高専学会の石井先生の方から「早期技術者教育の必要性」と言うことでお話がありましたが、その点をもう少し詳しくお話願えないでしょうか。

石井好　教育制度は基本的には高専生は５年で卒業の道を選ぶか専科大学の道を選ぶか、他大学を選択しようが自由だと思います。そこがまた高専の魅力だと思います。高専生の良いと

ころは受験に疲れていない点です。「人は企業が育ててくれる」と言われるように、企業に入って力を発揮する人も多くいます。アメリカのビルゲイツも高校を出ただけだし、エジソンも優等生ではなかった。又本田宗一郎も学歴はなかったが、世界の本田を造り上げた。

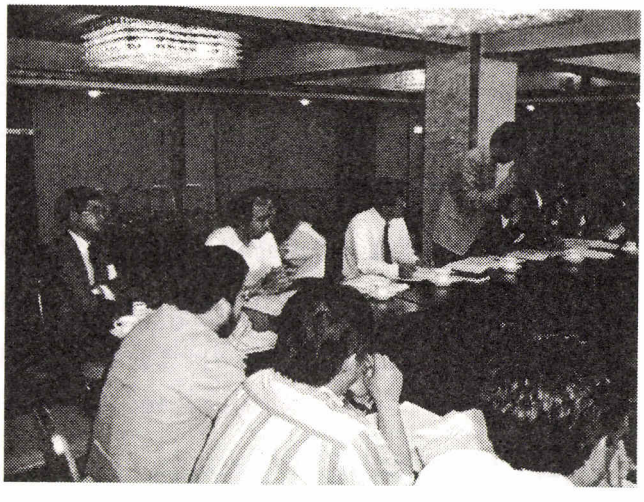
なのに、日本では高学歴が幅を利かせる社会となってしまった。大学生の7割までが国語・社会・英語の3教科しか勉強せず社会人となって、これからの日本はどうなるのか考えてしまいます。その上、大学の教育というと150〜200人も集めてのマスプロ教育です。その点ではまだ高専教育には希望が残っています。

又専科コースも出来るようになったので選択の幅が広がったと思います。

司会　貴重なご意見有り難うございました。他にご意見はございませんか？

都立高専　小林さんどうぞ。

小林隆　実際に物を作ったりする技術者は減っています。早稲田大学の某学生からこんな物を作って欲しいと当社に依頼がありました。どんな物が作りたいのか描いてみろと言ったところよう描けません。今の学生はCADであれば何でも描けると思っているがそれは大間違い。紙と鉛筆と頭が必要だということが分かっていない。私も高専で教えていますがそこのところを分からせようと、私は外部の実践教育と言う立場から力を入れています。現在の高専制度をだんだんダメにしていったものは何かと考えますと、学生でしょうか？教官でしょうか？　私が考えるに一般社会の高学歴主義であり、責任があるとすれば、ここではないでしょうか。



司会　有り難うございました。

続いて長野高専　永籐さんお願いします。

永籐壽宮　石山さんの高専制度の在り方のお話ですが、この私案を学校に戻って同窓会でさせるとあるのは無理だと思います。なぜなら現在でも校内には、専科制度があり、又従前の高専制度があることを学生間の調和を取る上からも非常に難しい問題があるからです。

藤嶋俊哉　これはあくまでも石山氏の私案と言うことでご理解頂きたい。

司会　他にはどうでしょうか　新居浜高専の成岡さん

成岡峯男　私は高専に疑問があります。皆さんの子息を高専に入れますか。実際に入れていますか。世間と同様にしていませんか。

石井好　そんなことはありません。私は娘を現に高専に入れています。長女は一般大学に入

れましたが、２人も一般大学では身が持ちません。なんと言っても実質的には大学以上の勉強をするし、学費が安いのが非常に魅力です。

小林隆　なぜ長女は大学を選んだのですか。やはり世間一般常識からですか。

石井好　最初は私自身だめだと思っていましたが、長女を入れてみて高専の方が優れていると分かりまして、次女は今高専に入れた訳です。

新保則夫　長野高専の現在の卒業生の進路を見れば、親として普通高校へ進学させたのが悔やまれます。何故なら、進学希望者のほぼ100%が国立大学へ編入、それも名のある大学へ相当数編入しているという実態を知ったからです。

日本の高学歴主義は恐らく無くならないであろうし、実力主義社会へ移行してきているとはいえ、それは稀少数であり、急激に増えていくとは考えられません。ですから親となった高専卒業生の大半はその子を高専へ送ることはないと思います。しかし、国立大学への編入制度の実態を知ればそれは問違いであったことに気付くでしょう。

また教育費がかさむ中で、経済性の点でもメリットがあるなど、高専から大学への編入制度には親の関心は集まって当然です。それにも拘らず高専の人気が高まらないとしたら、それは正確な情報が提供されていないためで、中学校の教員も現状を知っていないことが原因だと思います。が、これは正確な情報が提供されれば解決される問題です。

こういう現状からして、現在の高専の予備校化は現時点における最良の選択ではないでしょうか。就職希望者にも十分な実践的教育がされ、高い求人率となっている。進学希望者には文系をも含めての進学が可能となっている。言葉は悪くとも高専の予備校化は実利のある道であると思います。また、専攻科の導入については、教員の研究主体の傾向が強まり、その結果、高専の良さを失うものであるとする、諸先生の話しが真実であろうと思います。

碇山みち子　日本が世界において経済大国になれた一番の原因は、資源の乏しい国で何が世界の人びとにウーとうならせたかと言うと、それは「技術」以外のなにものでもありません。自動車にしてもしかり、食べ物しかり、創意工夫をする事にかけては、どの民族にも負けないと自負しても良いと思います。

ところが、日本の制度はそれを作ったり改良した人よりも、その製品を外国に売ったり、銀行などお金をうごかしている人達が多くのお金をもらえる仕組みになっているので、技術を学ぼうという若者が少なくなっています。

ただ、この問題は政治の世界にまかせるとして、今日、高専の卒業生が自前で、ワールドサッカーを見たいのも抑えて、このように集まって、どうしたら高専の学生がいきいきと学べるか、高専が社会にとって重要な学校となるには、と議論している人達がいる事は素晴らしいことだと思います。

そこで、ここに集まっている方、又技術を習得してその道で活躍している方の、つまり卒業生の情熱を持った方が、高専に帰って教師として指導していただければ、もの作りのおもしろさを学生は学ぶ事ができ、高専の実習等も目の輝きが違ってくるのではと思います。つまり、そうでない先生方も沢山おられますが、教師がものつくりができない、情熱がない、これが学校の衰退している原因だと思うからです。

なぜ、このようにはっきり言えるかと言うと、私は現在、東京大学工学系精密機械の技術専門職として働いていますが、週に1回「有限要素法による応力解析」の演習を担当していて、こちらが真剣に情熱をもってあたっていると、学生の目が違ってきますし、質問が沢山でてきます。また、いい加減な学生には容赦なく「ダメだ」といって叩きます。学生は「親にも叩かれた事がなかったのに」と言いますが、『そう、痛かった』と会話がはずみます。

もう一つ東大で企業からこられた先生が、停年前なのに学生と一緒に、楽しそうにひずみ計測機を作って、一緒に研究をしておられる姿を見ていて、勿論、学生も目の輝きが変わってきましたし、もの作りをしていない先生には学生と一緒に考える接点がないので、講義だけ会議だけの人になってきます。そんな先生から学ぶ事はなにもなくなります。もっと、技術を習得する事に誇りをもって教師があたれば、生徒は変わってきます。高専生で特許などを、どんどんとってもいいわけですから。

最後に、女性が増えていると伺っていますが、これから情報科をもっと増やして、コンピュータの管理ができる女性になれば、家庭をもっても仕事ができると思います。この会には役に立つことがありそうなので、これからも参加させていただきます。　（大きな拍手）

司会　貴重なお話有り難うございました。他にも多くの方々にお話を頂戴したいのですが、時間の関係で第2ランドの6時からの懇親会にてお願いします。

高専の教育制度の在り方について、というなかなか大きなテーマですが、只今のご意見の中にもでて参りましたが、技術立国日本としては技術者が必要でありそれを発展させることが世界の中で生き残ることだと思います。本日ご出席の会長さん又は代理の方も、同窓会或いは学校に現状をお話して欲しいと思います。いずれにしても今この地位にある我々が一生懸命にならないと誰も高専のことは考えてくれません。どうか検討して欲しいと思います。

また、高専同窓会長連合会とヒューマンネットワーク高専との関係でありますが、本日のこの運びとなったのもヒューマンネットワーク高専の自由な発想から発展したものであり、高専会長連合会はそれとして必要なものであります。ヒューマンネットワーク高専は自由な身で高

専のことを議論できる場としてまた必要と考えます。

田玉治實代表幹事　只今だいたい意見がでましたが、高専制度の各同窓会の意見を7月末迄にまとめたいので、よろしければ代表幹事の藤嶋さんと石山さんのお二方にお願いしたいと思います。討議結果は事務局又はお二人に直接送っていただいても結構です。

尚まだ議論のつきぬ処は懇親会の方でお願いします。

司会　先程熊本電波高専の山隈さんがお見えですので自己紹介をお願いします。

山隈瑞樹　熊本電波のOBです。ホームページを見ていまして、本日集まりがあるということを知り、嬉しくなって訪ねてみました。

議論には参加できませんでしたので、懇親会の方でお話に交えさせていただきたいと思います。（拍手）

司会　毎回議論がつきませんが、時間が参りましたので、これにて第2回定時総会を終了いたします。

この後、懇親会にて再討論お願いいたします。更に持ち帰りいただいて同窓会、友人と議論いただいたものを提出してください。

それらの全体を持って、本会運営案、制度に関する提案とさせていただきます。本日はありがとうございました。（拍手終了）

2．ヒューマンネットワーク高専の運営について、高専制度に関する提案　紙上討論会

このことについて、総会後の紙上討論会を企画しましたところ、多くの意見が寄せられました。

自由にものが言える会を目指している訳ですから、たいへんは覚悟で全部乗せました。普段上手く言葉を操って居ない技術屋の文章です。あなたも苦しんで読んでください。

順序は不同、初めはは記名でと云う訳でしたが、中に匿名の方がおられたり、同窓会でまとめたときに無記名であったりで、今回は無記名で、そのかわり責任は全員で、「これが総意だ」ということにしましょう。（事務局）

「私の高専感」　　長野高専　3期　OB

(1)　高専制度の在り方

バブル期が去り教育偏重時代が見直され優秀であれば高校2年でも大学入学でき、3年生で卒業、つまり20歳で大学を卒業できると言うわけです。どこかで聞いたことがありませんか。我々が入学し卒業した高専は正にこんな感じで地方の中学校の1、2番の生徒が受験したものでした。高専の特徴は

1　安い授業料
2　大学の工学部に負けない専門科目の授業数
3　遊びなどあまり知らない内にしっかりと勉強できる
4　受験などに余分な神経を使わず疲れていない
5　寮などの施設利用者が多く団体生活の基本が身に付いている
6　受験の心配がなくスポーツを通じて心身を鍛えられる
7　高専制度で充分世に通じる力が、更に学びたいと思えば色々な道の選択肢が可能

以上のようなことが上げられますが高専制度がどんな効果が出ているか、1～10期・11～20期等のように区切りを付け、文部省での調査を行いどんな効果が上がっているか他の教育機関との比較が必要と思われます。例えば、

1　自営などの経営者となっている率
2　管理者となっている率
3　技術者としての平均的レベル

等の検討の上で高専制度の見直しが必要と思われます。見直しとは

1　設立当時は非常に高かった志願倍率も、一般的年齢での評価しかされないケースが多

かった事から志願者数の減少、人気の低下にと繋がった。これは20歳で大学を卒業した人に対する評価も十分考慮しておかないと間違いの基となることを示唆している。

2　人を評価するには色々な方法があり（イ）物（金）での評価、（ロ）名誉、（地位）での評価

があり実力に見合った校名などにすることも重要なことのひとつと考えます。

高専の特徴の１～７を生かし評価の向上により早期技術者教育すなわち技術立国日本を復活させる原動力となることは確実だと思われます。

(2)　ヒューマンネットワーク高専と同窓会

ヒューマンネットワーク高専は

1　先輩のいない我々は一人一人の努力によってここまで来たが、これを全国的な幅広い輪としたい。

2　化学進歩の社会発展に合った技術の向上発展にと相互啓蒙を計る。

3　高専の在り方を本会を通じ、社会に学校に後輩に語りかけ発展させる。

このような理念を持った組織であり高専在籍者であれば誰でもまた、特別会員として同窓会企業等の参加も合わせ行っています。そしてこの組織は高専制度の在り方を素直な物の見方・考え方で意見交換し高専制度の向上発展を第１に考えています。そこで問題となるのは組織を運営する資金であります。インターネット等の利用で非常に苦しいのは現実です。そこで同窓会などの参加により卒業当時同窓会費として納めた物を高専の発展のために使うのなら、いや使っていただけるのなら大いに賛成であると考えるのは私ばかりではないと思っています。是非とも全国同窓会の参加をお願いします。また、全国高専同窓会も出来るだけ早期発展し、公的データ等を早く出せるようにすべきだと考えます。それはヒューマンネットワーク高専を利用しても良いかと思っています。ヒューマンネットワーク高専はあくまで高専制度全体を他から束縛されない立場から意見具申できる機関として大事な物だと考えます。

豊田高専同窓会　OB

創設当時は、画期的な新しい学制であった高等専門学校制度も既に30余年が経過した創設当時は工業立国に日本を変え、その為に中堅技術者を短期間に養成して欲しいという時代のニーズがあった。今や世界の中でも最先端を行く技術力と工業生産力を手にした日本では、技術者を短期に養成するよりも、独創的な想像力と国際人たる技術者を必要とするようになってきたのではなかろうか。

今後益々製造業を筆頭にあらゆる産業が世界を一つの経済単位と考える方向に進んでいくことは間違いなかろうと思うし、東南アジアの片隅で起きたことが世界の経済に大きな変革をもたらすような事態にも成る。そんな中で高等専門学校の役割と今後の方向について私見を述べてみる。

我々が創立当時に受けた高等専門学校の特徴は

1．高等学校は当時既に大学入学のための予備校化していたので、特色のある教育は出来ない。

ところが入試の影響のない高専では、5年間という間に専門科目を始めいろんな科目を独自に進めることが出来る。まさに一貫した専門科目に対する教育が出来ることである。

2．専門教育に対してはより実務に即した教育をする

ということ等であったと記憶している。

また高等専門学校制度は、中学、高等学校、大学という従来の学制に大きな変革をもたらした。そこで今後の高専の在り方を考えるに以下の観点からまとめてみたいと思う。

1．学制を高専制度として維持すべきであるかどうか。

2．高専制度の特徴を活かすにはどうあるべきか。

（学制を高専制度として維持すべきかどうか）

今日高学歴化が進み、大学卒業者よりも院卒者の方が就職に際して採用数が多いという時代である。高専にあっても卒業生の半数以上が、専攻科・大学・或いは大学院大学へと進む事態となっている。

上級学級への進学に際しては、入学試験があったり或いは推薦入学であったり様々であろうと思われる。

推薦で上級の学校に進学するには、高専は受験勉強のない、ある意味では、気楽な予備校であるのかも知れない。

ところが、高専へ中学から入学するには少なくとも、難しい受験勉強をしなければならないという事実もある。

高専制度の特徴である　大学への受験を目指した教科、教育を特にはしないということが貫かれ、希望者には推薦で上級の学校に進ませるということであれば、このことが返ってさらに大きな高専の特徴となることは間違いがないであろうし、5年間という期間にも十分自己を啓発することができるであろう。

答えが単一でなければ合格しないという入学試験のつまらない学習から解放されて、それこそ国際的なセンスも磨くことができるかもしれない。

また上級の学校に行かず就職する場合にも、受験勉強という3年間を経験せず、その間に専門知識と問題に対する解決の方法を自分なりに発見することもできる。

今まさに東京大学を頂点とする受験レースからの解放が豊かな人間性と常識ある人を造ることとなるのではなかろうか。

誰でも大学を卒業する頃となった今こそ人間性が求められているのである。今までは到底考えられなかった大きな会社が何時つぶれるか誰も予測出来ない時代である。どの産業が何時まで繁栄するのかももはや誰も判らないという時代に入りつつある。歪んだ人間性こそ最大の障害であろうと思う。

技術者の促成栽培という高専に対する社会のニーズは最早終わったにしても、豊かな人間性を醸成する場を提供するという意味で高専制度は益々必要であろうと思う。

（制度の特徴を活かすにはどうあるべきか）

学制としての高専制度を活かすには、前にも述べた最大の特徴と考えられる５年間に渡る生きた教育の場を提供するという意味を活かすことにつきると考えられる。工業にのみ特化した高専にあっても時代のニーズに応えて情報工学・或いは都市工学という学科も徐々にではあるが増設してきた。

ではなぜ“工業”高等専門学校でなければならないか？

学制の多様化という意味を担った高専制度にあっては、工業に特にこだわる必要はないと考える。

新しく学校を増設するのではなく、既設の学校を変える等をしていろんな分野の専門学校があっても良いのではないだろうか。

医学専門学校・物理専門学校・或いは法律の専門学校等があっても良いのではないだろうか。

新しい価値観の基に創造的な人材が育つ場を提供するという意味に於いて高等専門学校制度は発展していくべきであろう。

豊田OB　機械　77卒

豊田高専を卒業し21年になりました。機械工学科を卒業し、ソニー幸田に入社し、父親の都合により１年余りで退職し家業である工務店を引継、その後、土木施工管理技士・建築士・商業簿記等の免許を取得しながらの会社経営への参画でありました。又、現在は地方自治体の市議会議員としての職につき２年目であり、議員としての仕事が中心であり会社の仕事を疎かにしている現状の日々であります。

機械工学科を卒業し、機械系へ就職し、現在もエンジニアとしてご活躍の皆様とは少し違った人生経路でありますので、この点を少し加味して意見を受け取って頂きたいと思います。

それでは本題に入ります。最初に大変申し訳ないのですが頂いた資料の日本工業新聞の記事

・すでに寄せられた全国のOB・OGの意見のホームページの情報を私は持っていませんので私の一般的な意見であります。問１の各産業界でモノ作りの中心を成してきた実体・実績という点では私にはそれだけの自負心がありませんので割愛させて頂きます。

問２の大学3年への編入制度については、私達の時代にも少なからずともいまして、現在では相当数と聞いています。私も現在思うことは、５年制が少し中途半端であるということは否めない事で、大学３年への編入は本人の選択肢のひとつで素晴らしい手だと思います。しかし、時代の流れで相当数が増え続けるのなら、その学校内にて高校・大学の一斉教育にて５年制プラス、７年制の選択肢を設けるのも新しい考えだと思います。

問３の専攻科については時代に沿った専攻学科も新設され、それなりに私も賛同し魅力も感じます。

問４の５年間の授業内容については、高専の５年間を振返って見ますと最初の２年間の学生生活中寮生活は私の人生の中でも一番プラスに成ったと自負するものであり、又、特に勉強・スポーツのできる環境でもあったと思います。２年間に短縮した一般科目、後の３年間は専門も踏まえた授業内容では、現在に思うことは「少し一般常識が足りなかったかなあ」と思うぐらいで長い人生の中の５年間であり、私にとっては身のあるものでした。

問８の今後の高専制度については、教育問題の一つで義務教育の６・３制度の後半の中学３年間と高校３年間の一斉教育が模索されています。中学から高校への選択の中に五年制の高専制度は親にとっても魅力のある選択肢だと思います。教育制度とは多くの制度の中、学生本人が勉強を通じ自己を発揮する事のできる選択肢の場所だと思います。

親の意見が強くなりつつある進学問題の中で学生本人が途中に理性を発揮できるスペースも在ってもいいのではと思います。

問９の技術立国日本における高専制度の位置付けには、参考資料の中に「工業立国日本が現在失いかけている部分に警鐘を促すというスタンスでむしろ高専の存在意義を訴えかけたい」という文が記されていました。この文に対して私は、それ程、高専の存在意義を工業立国日本と重ね合おせて述べる事には賛同しかねます。ついでに「ヒューマンネットワーク高専」の意義の考え方の中にも多々賛同しかねる文がありますので意見として述べさせて頂きます。

最後に高専について、第三者からのいくらかの中傷などもありますが、高専としての毅然とした態度にて対応をすれば結果は自ずとして良いものが見えて来ることと私は信じています。そうは言いましても各種専門学校と明確に区別するために「高等専門学校」という名称を変更できればいいと思います。

以上

高知高専同窓会事務局

ご依頼のアンケートの一部に回答させていただきます。私自身、高知高専の卒業で、電気工学科に身を置く者です。ご依頼の項目に回答する目的で、会社に身を置く卒業生の一部に意見を求めました。なかなか意見をまとめることは困難ですが、高知高専に身を置く卒業生（合計12名）の意見を含めず、外部の方の意見の平均的なところを下記のようにまとめてみました。したがって、以下の文章は、私の責任に帰するもので、必ずしも高知高専同窓会の総意ではないことをお含みおきください。項目７）、10）にも意見が寄せられていますが、期日を過ぎてもまとめられませんので、とりあえず項目１）～６）について回答いたします。

１）物づくりの実態を成してきた卒業生の実態

例１

ある大手総合電機メーカーに入社後、産業用機器（自動化ラインのロボット等）の開発・設計およびOA機器の開発・設計に従事、その後部長職を経て、平成８年から電化機器事業部副本部長。新たな事業展開の開発・設計にリーダーとして従事し、その実績が認められ、最大手企業の副本部長に就任した例です。

例２

ある大手金属工業に入社後、製造部に所属、連続電気亜鉛メッキ、連続溶融亜鉛メッキラインの技術スタッフ（11年）、同部管理補、管理職（13年）、平成９年８月より、薄板製造関係の新会社設立に伴い、工場長として転出。同一部門で24年間じっくりと教育されて、製造工場の責任者となった例です。

例３（OGの例）

大手外資系コンピュータメーカで、新工場設立に伴いプリント基板の生産ラインプロジェクトに参加、生産ラインの構築に従事、プロジェクト終了後、超大型コンピュータの生産技術担当となる。その後、新製品企画、プランナー等を担当し、昨年より、外部企業やエンジニアリングのコンサルタントを担当。すべて、新しいプロジェクトに従事した、OGとして貴重な例です。

２）大学３年への編入学制度に関する意見

大学側から、高専の実験実習を重視した教育が本当に評価され、編入学が期待されているなら、高専教育が大学でも認知された証として前向きに考えたい。また、高専に入学すれば、向学心があっても道が途絶されるのでは、向学心に燃える優秀な中学生が高専に目を向けるには迫力不足であるので、「自由度」、「発展性」等の面では良いと思う。

しかし、卒業生としては、高専制度の創立目的、もし、時代とともにその目的の変更が必要なら新たな教育目標を明らかにし、その軸足がふらつかないようにして欲しい。すなわち、あくまで5年で卒業して社会に出る人を中心に考えるべきであり、大学編入学を目的とした進学校化には反対である（大学への編入学を優先させるなら、高専の教育目標を明確に大学編入学と明記すべきである。卒業生としては抵抗があるが。）。高専を踏み台に大学をめざす人を集めるよりは、本当に高専で学びたい人を集めて教育する方が、高専の独自性を発揮できる。

3）専攻科に関する意見

専攻科の学校単位での設置には賛成できない。卒業生の受け入れ先としては、長岡、豊橋両技術科学大学があり、また、その他の大学も編入生を受け入れている現在、専攻科設置が本当に高専の将来につながるかは疑問である。高専のような小さな組織内に専攻科を設けても、ハード、ソフト両面での充実が困難と思われ、発展性がないと思われる。専攻科では、高専卒の悪い面（純粋で脆い、実社会を知らないなど）を助長するのみで、向学心に燃える卒業生は、編入学等の荒波を越え、高専とは別組織の教育機関で学ぶ方がよいと思われる。7年間高専生活は長すぎる。ただ、学士という資格取得のみを目指すなら、民間企業では、卒業学校名や、学歴が通用する時代でなくなることは確実であることを認識して欲しい。

4）5年間の授業に関する意見

卒業時とはカリキュラムに大きな差があり、また、現在の高専のカリキュラムを良く理解していないので、適切な意見は申し上げられない。

経験から言わせていただけば、多少詰め込み気味であったが、基本をしっかり教えて頂いたし、実験・実習も会社で戸惑わない程度のことは経験できた。クラブ活動にも打ち込めたし、高専での経験は貴重で有意義であったと感謝している。

ただ、会社見学や企業実習、外部の講師による集中講義、卒業生による特別講義などを通して、少しでも外部との交流が広がる教育活動が大切と感じている。基本的には、即役立つ教育よりも、10年経っても20年経っても通用する基礎教育を軽視すべきでなく、新しい技術に対する対応力や挑戦する実行力が身に付く教育が必要と考えている。

5）高専の入学試験、資格に関する意見

質問の趣旨がよく分からないとの意見が多く、余りコメントは寄せられませんでした。

6）在校生、教員に対する意見

産業界に身をおく高専の卒業生として希望を言わせていただくなら、社会人になって伸びる学生を育てて欲しい。知識が不足していても、勉強する意欲と吸収する能力があれば伸びる。

最近の高専卒業生はこれが欠けていおり、レベル低下を痛感している。大学や大学院と同じ環境、処遇を考えても、それが困難になっている実状を認識して欲しい。そこで、ミニ大学化するのでなく、先生方が、大学とはここが違う、と自信をもって企業や社会、あるいは中学生にアピールできる教育をお願いしたい。また、知識偏重でなく、自己啓発に自信を持つ卒業生を育てるには、少人数教育、理論の実験による検証と理解、実習を取り入れ物づくりの楽しさを身につけさせる教育等、高専の方が大学より、過去の実績も含めて、整っているのではないか。これらの点を発展的に充実させるべきである。

以上

阿南OB　11期機械

高等専門学校は、他の国々にはない優れた特徴をたくさん持っている。それは、５年間一貫教育であり、卒業生は大学受験戦争に汚されていない柔軟な思考能力を持った実践的な技術を有しているなどが挙げられる。それらの中でも、特にその入学生の年齢があげられるだろう。ほとんどの子供が高等学校卒業時に大学を選択するために各大学は縦並びにランク付けされているのが一般的な常識となっている。ところが、高専に関しては中学生のある程度の学力を持った子供たちが入学してくるために高専卒業生は大学卒業生と同じものさしで測れない、比較できないところがある。はたして中学校を卒業した後の長期一貫教育で高等教育を行う機関は外国にはあるのだろうか。このような高専の特徴が十分生かした技術者の養成は重要であり、大学卒業技術者と高専卒技術者が渾然一体となった工業社会がその発展のために必要である。

たとえば、中国では日本の旧帝大にあたる7つ程度のランクの高い大学（北京大学を筆頭とするもので入試で500点満点中495点くらい取れないと入学できないそうである）があり、その後にいわゆる地方大学、単科大学がある。さらにその下に専大というのがある。すなわち大学と名の付く学校に入れない子供が専大と呼ばれる高等専門学校へ行っている。つまり、中国の高等専門学校はすべて大学の下にランクきれている。

ところが日本では先に述べたような理由により、大学と一緒にランク付けできない独自性を持った高等教育機関であるといえる。とは言うものの高専の現実は、社会においては少数の高専卒業生、大学と比較した場合の2年間少ない就学年数から社会的認識の不足あるいは大学よりも低レベルという先入観は拭い去られていない。

高専の社会的地位を確立するためにはまず第一に大学名称への格上げが考えられる。そのためには、教官、学生の質の向上、専攻科定員の増加、各高専による学位授与、などなど数え上げればきりがないであろう。

ともかく、今後高専は専攻科定員の増加を目指し、５＋２年間の一貫教育を行い既存の大学には無い自主・想像力を持った実践的技術者となる卒業生を送り出すことが使命であると考える。

阿南OB　17期機械

２）大学３年への編入制度に関する意見

修士卒というのが世間であたりまえになっている現状を考えると、高専から大学３年生への編入制度は大変ありがたい制度だと思う。私が編入した頃（15年前）に比べると、最近は受け入れ大学も多くなりかなり編入し易くなっていると思われるのでどんどん活用すべきである。大学進学のメリットはたくさんあると思うが、そのなかでもやはり『視野および人脈を広げることができる』というのが一番大きなメリットではないかと思う。特に高専生はこの点について狭くなりがちなので気を付けるべきである。

したがって高専卒業生で進学可能な人はどんどん大学に進学すべきと思う。ただ、学校としても大学進学布望者に対して進路指導等何らかのバックアップをすべきであると思われる。

それと大学編入者の追跡調査（編入後の進路等を調査する）をしてもおもしろいと思う。最近本校卒業生で、大学に進学したのに中途退学したり、修士まで進学しない人が結構多いのが少し気になっている。

３）専攻科に対する意見

確かに『工学士』が得られるというのは、地元の人にとっては大変おおきな魅力であり、15歳人口が減少していく今後を考えると高専の生き残り策としては意味があると思う。しかし、あくまで個人的な意見であるが、同じ学校で７年間も過ごすことは視野を大変狭くし、甘えを助長させているように思えてならない。学生のことを考えると、大学編入学可能な者は大学へ進学すべきと思っている。

では、専攻科が生き残るにはどうすればよいのか。その方法として社会人枠（大学の社会人ドクター枠のような感じ）を拡張して人材を集め、もっと研究を中心にしたカリキュラムに変更すればよいと思う。

６）在校生、教員に対する意見、希望。

最近の高度情報社会の波により、コンピュータが中心の社会となっている。事実コンピュータが使えない者は、仕事にならないぐらいになってきている。その波は学校の方にも押し寄せ、

カリキュラムもコンピュータに絡んだ授業内容のものが増えてきている。それが原因かどうかわからないが、本校学生で卒研や授業等で手を汚したり、動かすことを極端に嫌い、とにかく自分で何かものをつくってやろうという意欲を持っているものが極端に少なくなってきている。すなわちコンピュータとデスクワーク中心の勉強しかほとんどしていないように思われる。

本来工業というものは、ものづくりが原点となって発展してきており、それは今後も変わらないと思われる。ものづくりのノウハウはコンピュータを使ったシミュレーションで体得することは難しい。自分でやってみてはじめて体得できるものであるから、学生にはどんどんものづくりの楽しさ、難しさを味わわせるべきである。ものづくりを通して学習させるというのが、本来の高専の姿であったはずである。

阿南OB　18期機械

「モノ作り中心」という概念は、ここ数年の間に消滅しようとしているのではないでしょうか。

高専の位置付けについて、早急に考えなくてはならないことだと思います。
ブロック単位ごと、高専そのものが統合化されるのではないかと思っています。

専攻科についても、私自身、魅力を感じません。やはり、高専と大学の間にはギャップがかなりあると思います。私なら、専攻科より大学の方へ進学します。

阿南高専も、カリキュラム等（システム）を見直すべきではないでしょうか。「モノ作り中心」となるように。
年四回のテストの為にしか、勉強しない体質。これは、非常にまずいですね。「国立高専も、独自色を出さないとつぶれる時代である」ということを、認識して貰いたいです。

阿南26期電気OB

高専は今まで物作り主体の教育を行ってきた。そしてその教育を受けた数十万人の卒業生を産業界へ送り出し、各産業界から多大なる評価を得ているものと確信している。

今後の日本，さらには世界の産業界を考えた場合、物作りができる技術者という人材は貴重な存在になってくる。これからの社会において後にも先にも、物作りができなければ学問の存在意義もなくなるのである。何故か？

それは，我々の生活に密着しているのは机上の空論ではなく、物という実体なのだから。ま

た、上記において「物作りができる研究者」ではなく「物作りができる技術者」と記述したのは、基本的に研究（学問）と技術は異なるものであることを強調したかったからである。

では「物作り」を考えた場合，何が必要になるのか？物を作るためには必ず道具（技術）が必要になる。道具を作るためには、また道具が必要になる。その中で新しい道具を作るためには学問の手助けを借りることになる。これら物作り、技術、学問の３つは、「物作り⇔技術⇔学問（研究）」の関係にある。すなわち技術は学問と物作りとのインターフェースなのである。学問から新しいものが生まれるのか？はたまた物作りから新しい学問が生まれるのか？それは人によって考え方に相違があるだろうが、私は「物作りから新しい学問が生まれる」という方を支持する。

すなわち、ある物を作りたいという欲求から、新しい技術、そして新しい学問が生まれるのである。そしてそれは新しい物を作り出すということになる。

結論として何が言いたいのかというと、物作りという欲求があってはじめて、新しい技術、新しい学問が生まれる。高専は物作りを主体として教育を行ってき、多大なる成果を産業界にフイードバックしてきた。高専卒以外の大学生は学問主体の教育を受けてきたため、物作りの大切さ、面白さを見失っているような気がする。これは筆者自身が、高専卒業生であり、また大学へ編入学も経験し、その経験に基づいて執筆していることに注意を促しておきたい。

高専卒業生は若くして物作りの面白さを体験済みの貴重な存在なのである。そして，若いうちに物作りの面白さを伝える教育ができるのは高専という組織なのである。最後に、今後高専が進むべき道は、やはりいままで通り物作り主体の教育を大事にしていくことであるということを主張しておく。

一関８期OB

＜高専制度について＞

私の場合、高専を卒業し20余年、一企業ばかりに従事せず色々な業種を経験してまいりました。機械工学を専攻し、建築あるいは電子の仕事も経験して参りましたが、基礎的な授業が不足していたとも思いません。ただ、大学の専攻のように、より深く掘り下げた一課題を追求するところは、多少不足しているように思いますが、学生の段階で一課題を選択するのは多少の無理もあると思います。

社会に出て、経験を踏まえ一課題を追求したくなった時点で、どんな人でも研究出来る機関、あるいは臨時の研究部門が高専の一部にあっても良いのではないでしょうか。

高度急成長時の、即戦力の中堅技術者の育成を目指していた時期と、現在の社会状況は大き

く隔たりがあると思います。社会実務上、大学出身者の範囲と高専出身者では初めから区分けされているように感じます。どこにその隔たりがあるのでしょうか？　実務上、図面引きや物を形にするのは、何も理論ばかりでは無いはずです。　大学出身の技術の方々に、「高専」と半分ばかにされておりませんか？一般社会的風潮で、最初から一ランク蔑視されておりませんか？　皆さんの職場ではいかがでしょうか？

また、編入制度を利用する方々も現在だいぶ居られるとのことですが、それはそれで良いでしょう。予備校化も社会風潮上、現在の高専の在り方が、特に特質すべき点がないからではないでしょうか？創立当初と現在の社会情勢があまりにも隔たって来ているのです。もう即戦力の中堅技術者の育成ではなく、海外に負けないようなユニークな教育機関に変貌すべき時です。必要な学問の履修は当然必要ですが、枠にはめこまず、個人個人の長所を伸ばしてやるような時間もどんどん作ってやるべきです。

色々と発想することは面白いことです。大学の高等教育は受けておりませんが、自分の頭の中の物を図面を描き、弁理士のような専門的な文章に納めることは出来なくても、とりあえず他人が見て判る状態にまとめれれば、それでよいはずです。大した物じゃないけど、批判されますが、したい人たちはすれば良いだけです。そんな人たちは、図面を描き他人を納得させることが出来るのは極わずかな人たちです。

その内に、訓練して自分を追い詰めて往くと発想等、花火のごとくパチパチと弾けてきますよ！その繰り返しをしているうちに、世の中が騒ぎだすような物が出てきます。

こんな自由発想の時間を、講義や自由時間を作らなければならない時代ですし、技術立国日本とは名ばかりの現実。打開はこんなところにあるのではないでしょうか？

電子業界では、WINTELばかりが主流です。日本独自のもの意地で推し進めている企業、何社ありますか？主要電子日本企業でさえ、殆んどが同じ路線を、後を追い掛けているだけじゃありませんか？真似事ばかりの日本技術立国、自分の子供たち、その子供たちいつまでたってもこの状況がくりかえされるのでしょうね！この状況の打開をするには、国立高専教育のユニークなカリキュラムの変革が必要であり、且つ、高専制度がその先駆となるべきであると思います。必要なもの、実技とも揃っております。工業高等専門学校ではなく、“何か面白いことやろうじゃない科”で良いのではないのでしょうか！

難しい基礎理論の研究や基礎技術の研究は、大学に任せればよいのです。総会の時に、どなたかがおっしゃられたように、“ノーベル賞でも獲るような飾りになる人が必要”、私も賛成です。ノーベル賞でなくても、ユニーク賞でも良いのではないですか。

物作りに憧れ高専を受験する子供たちが増えれば受験倍率も当然あがりますし、面白い子供たちが集まります。朝から晩まで材料を与え、好き勝手に作りたいものを作らせれば良いじゃありませんか？必要な実技や必要な技術や学問は、その場その場で教えればそれが講義になり

ますし、講義と自分の体験が同時ですので忘れることもないと思います。講義で色々勉強しましたが、その講義が実務のどんな場所に必要なのか、高専生活5年の間では私自身は理解出来なかったのが、本当のところです。

実務を経験して初めて、あの講義をもっと勉強しておけば良かった、と反省することがよくありました。自分の場合を例にとりましたが、出来の悪い学生でしたので、他の方々については一概にいえることではありません。とにもかくにも、学問と実際問題をくっつけてユニークな教育を推し進めるべきです。

これは私の持論ですが、日本独自の技術を作り上げるに必要な人間教育が絶対に必要で、且つ、それをなせるのは高専制度であるべきです。

少人数でも多人数のクラスでも一向にかまわず、いかに個人の長所を伸ばすのか、いかに型破りな子供を育てて往くかが、開題なのではいでしょうか!!それが、海外に先駆する技術立国、日本をつくる起爆剤になるはずです。また、ソフトの分野や製造の分野に従事されることもおありかと思いますが、お金になれば何でもやって良いという考えはやめていただきたものです。

＜ヒューマンネットワーク高専と同窓会について＞

総会に出席して、今回の討論も時間が少なかったのですが、論議の中で多少の仕事上の繋がりや新しい製品紹介等あり、有意義になりつつありますが、まだまだお互いの実務上の関係ばかりであり、同窓会でなにかひとつをまとめ上げるまでには至っておりません。実務上の繋がりはさておいて、なにか一つ作り上げる目標をはっきりさせるべきです。小さなものではなく、高専同窓会すべてが一丸とならざるをえないようなものです。以上です。乱筆乱文にて失礼します。文章は、いまだ不得手であります。

最後に、不勉強な学生でしたが高専の教育を受けられましたこと、感謝しておりますとともに、今後の高専の発展を期待しております。

豊田OB

多くの高専に専攻科ができたことが、一見、大学構想とも言えるが、実態は、あくまでも高専を固定化したうえでの、専攻科と考えるべきであろう。

仮に高専の名称を高専大学として、大学化するという構想を掲げるにしても、高専制度が、もともと中等・高等教育が混然している点から言って、既存の設置基準の点から、様々な課題が大学化構想のための障害となっている部分は否めません。

もともと、中学校卒業後に、大学と名の付く教育機関に入れること自体が不自然なことでも

あります。

では、7年一貫教育として、高校部と大学部に分割しようものなら、教官をどう配置するかで、すったもんだとなるでしょう。

したがって、高専が高専であるという存在感を、より強固なものとして社会に認知させることが、必要なのかもしれません。だが現実は、高専の予備校化、高専間格差により、高専として持つべきアイデンティティーを確立することが極めて困難となり、意図せず高専の存在意義は拡散する方向にあるといえます。

熊本電波OB（抄）

総会での議論のサマリーを送っていただきましたが、高専が今後どうなるべきか、あるいは卒業生として何をなすべきかについて、今のところ、私にはHNKの理念に基づいた議論は出来ません。ですが、私の個人的体験から、今後の高専およびそれに関する制度的な改革を希望する点がいくつかありますので、それを述べさせていただきたいと思います。

(1) 高専から大学への編入以外にも、例えば、一定期間社会人としての実務経験を経た後、大学院へ直接入学できるような制度。

(2) 高専専攻科に社会人を対象に夜間コースを開設し、本科卒業生が働きながら高度な知識を学び、かつ、学位（学士）を得られるような制度。

(3) 一部の国家試験（公認会計士、弁理士等）では、大学の一般教養課程を経ていれば一次試験免除の特典が与えられているが、これを高専・短大卒にまで拡大。

宇部OB

1．高専は、最大の特徴として技術者を育成する学校であることを明確にすべきだと思います。

そのことをはっきりさせるために、指導者の多くを実際に社会で働いてきた人にして欲しいと思います。社会で一定の資格を得た人や経験を積んだ人は、高専で教育者になれるように制度を整備して下さい。

学者、研究者が教える内容もありますから、全員を働いてきた者にとは言いませんが、技術教育は現場の経験を伝えることが必要です。

ただこの案にはかなりの反対が予想されます。研究をしながら収入のために先生をやっている、現在の教育者の職域を狭めることになるからです。

日本の学校の英語教育が、実用的でないとわかっていながら改革出来ないのも、文学研究者が収入の道を奪われないようにしているためです。研究者と教育者は別な資質が求められる筈なのに、うまく分離できていない例です。

2．高専の一単位の学習時間をきちんと整理して評価して下さい。

高専の一単位を得るための時間は、大学の2倍になっています。逆に言うと、大学の一単位を得るための学習時間は高専の半分です。このことをはっきりさせないままに学習の単位数だけで評価されています。単位をきちんとカウントすることで、高専の教育内容が正当に評価されるようになると思います。

高専教育について（一卒業生としての意見）　大分OB

技術者を育成する教育機関で、5年間の一環教育が特徴であると考えます。長所は、少人数で受験競争の必要がなく、モノを造ることについて実習や実験を通して、現物で原理を手で確かめながら学習していること。

卒業後、企業の中での生産技術や、システム開発の現場で指導する者としての強みになると考えます。

日本経済を支えているのは、国や企業（国民）が豊富な資金をもっているだけではなく、モノを自分で造ることのできる中小企業が沢山あることだと思います。つまり金と生産技術力があることだと考えます。

発注者から仕事を受けて、仕事を下請けへ流すだけの、サービス業になっている大企業を支えているのは、中小企業だと思います。

実際にモノを造る現場で強みを持つのは、高度な専門知識と同時に、自分の手でモノを創造することができる、技術と知恵を持つ人間であると思います。

また、高専の予備校化を心配する声も聞きますが、高専で学習するなかで、さらに研究部門等へ進みたいと考える人や、大企業のなかでの出世競争で有利に戦いたいと考える人にとって、大学への編入枠を利用して大学，大学院へ進学できる選択肢があることは、学生にとって良いことではないでしょうか。

高等教育という言葉に縛られて、高専が大学のまねをしたところで意味が無いように思います。

短所としては、自分のことを考えると、中学教育からの問題である読み書きや文法重視の語学学習。これは少人数教育という利点を生かし、外国人の先生をより多くして実践的な語学学

習をすすめれば容易に改善できると考えます。社会人になってから自分で語学学校へ駅前留学してもいいのですから、大した問題ではないようにも思いますが。

一般教養の不足をいう人もおられますが、一般教養は勉強したければ、社会人になってから十分に勉強することができると考えます。

最後に、高専への進学率が下がっているそうですが、子供が減っている時代ですし、問題は、入学した子供達をどのように教育できる機関であるかということだと思います。

現在の就職難の時代でも、高専卒業生は相当に高い求人倍率のようですが、これは一期生をはじめとする先輩の評価が、企業の中で高いということであると思います。

私は、企業の中での高専卒業生の待遇は、決して悪くはないと考えます。企業の中で評価されている自分たちの状況を、世間の人たちがみて，世の中の評価が段々と形成されていくものだと思います。高専の歴史はまだ35年です。

これからも工業日本興隆の支えとなるのは高専卒業生であると考えます。

以上　とりとめもありませんが卒業生の一人としての感想です。

（追伸）高専という存在について、地域等へアピール（宣伝）するという面ではもう少し頑張っても良いように思います。

高専教育について　　大分OB

大学の工学部では、設計製図は選択科目としているところが多く、コンサルタントに入社しても図面が描けるようになるまで、かなりな時間を要しますが、高専卒業生は短期間で、描けるようになります。

こうした実践的な教育は、さらに充実されたらいかがでしょう。

しかし、大学ではパソコンの導入が進んでおり、就職してすぐに活用できますが、高専卒業生は今度は時間が掛かります。こちらは改善してほしいです。

某校OBの集団論議の中間報告です。

ヒューマンネットワーク高専として専攻科をバックアップすることについてはかまわない。しかし、高専同窓会としては、専攻科をバックアップすることは、時期が早すぎるので、もう少し論議を重ねる必要があると思う。

なぜなら同窓生の中にも「専攻科を実現しないと高専も取り残される」「受験競争率の事を

考えてやはり専攻科は必要」や、逆に「専攻科を作って意味があるのか」「中堅技術者の育成でかまわないではないか」という意見もあるからです。

また同窓生の高専教官の間でも「積極的に進めよう」という意見や、逆に「学生の今のレベルを考えると十分」「専攻科の中途半端な扱い、放送大学での講義の受講や、学位授与機構からの審査がいるなどで、むしろ大学編入のほうが良い」「研究に重点を置きすぎて、学生の教育に目が行かなくなり、高専らしさが無くなるのでは」とか、「人事」のことも絡み専攻科については論議の別れるところでした。

新居浜OB

今、大多数の高専卒は無口である。日々の生活に追われていて余裕が無い。私の高専卒知人で、私より暇にしてる者は居ないというのが企業勤務の実状です。夜遅くまで仕事する50歳近い技術者までいる。普段は全く、毎日空き時間が無く、論文形式で、評論する時間も無い中の感想報告です。

最初に、謝らなくてはならないのは、「子弟を母校に入学させない者が多い」と言う私の指摘です。資格問題があって、自由に様々な資格の受験資格すら無い様に出来た学校を、高等教育と言えるかどうか疑問であります。これ程までに不利とは、卒業後の転身に苦闘するまで楽観していました。教員資格、弁護士、国際連合職員、外交官僚等、典型であります。従って、医師、弁護士、教員、防衛高級官僚等、国の根幹を成す仕事には、とにかく、4年制大学を出る事によってのみスタートするという、実体があり、子供がそれを望めば、高専は視野から消さねばならないと言えましょう。まずは、この部分が最も足枷となってのし掛かる重圧であります。企業に於いても然り。暗黙の資格制度があります。表面上は無いとしております。大企業は、顕著であります。というのは、世間的に見て、実力逆転の事実を覆い隠すのは、チャンスを与えない事から始まります。学校のブランドを既得権益として、商売の道具にするのは、嘗ての、貴族の手法です。手を抜いても、安泰で居れるシステムの構築は出来上がっております。

高専卒は、それが出来ない境遇にある分、ある意味で、有利に働いている部分があります。常に弛まざる学習をして、エネルギーを集中させた人は、境遇の転換を実行するのに成功している例が多いと聞きます。かく言う私は、30年以上、英語を喋っていませんでしたが、語学力の基礎的要件を失う事が無く、全く、不慣れな国際ビジネスの分野に従事する事が可能となったのは、高専制度のお陰であると断言出来ます。ただ、それがどれほどの事かを言及するに値するとは思いませんが。

東大の先生の言われる「有限要素法」等は結局理解しなかった者ですが、構造力学上で解析手法としての重要性程度は、異分野と雖も、ある程度理解出来るのも、高専へ行ったからだと言えます。

高専を選定しなければ、教師に成っていたと断言出来る者でありますから、コミンテルン史観の浸透した洗脳社会の教育システムの中で、どこまで、本来の使命を果たし得たかは、疑問であります。自らの手でもの考え、作り、売ることによって成り立つ社会を生きる原点を忘れないで来たと気がつきます。ソフトウェアでも、ラジオでも良い。日本に生まれた以上は、この国から離れて生きて行った民族の歴史を持たない為、この国で物を作る以外に、日本人の生きる道は無いと言う事実を知りながら、梃子のように、小さい力で、大きな獲物を採るという邪道を実行してきました。その故に、国家組織、労働者組織、企業組織、皆、組織を、弛まざる膨張と散乱に置き、確固たる信念を持たない多くの羊の群を育成してきた結果、実は、私どもの祖父、親の世代に於いて戦われ、最終的に敗れたけれども、誇りを持っていた頃の、ひととしての何かを失っている事の方が、根源的問題であると考えます。

約50年前、南方において傷つき、殆ど、病気と飢餓により敗れたと言われる戦争を遂行しえた気概を、今や、望むべくもないのは、環境にもよります。物理的肉体労働力を失った社会は、やはり、病んでいると考えざるを得ない。私の手元には、ある衆議院議員から直接取り寄せた、最近のインドネシア情勢の現地実地報告があります。それは、まさに、当時の大統領が辞任を発表したその瞬間を、当時、帰国ラッシュの最中にあって、日本発インドネシア行きの機内にあった報告書であります。

身命を賭して行動する国会議員が、全く、いわゆる全共闘世代と言われる世代にも存在意志を持ち、且つ、その存在を支援する国民がいる事に、経済至上主義の中で、幾らかでも救いとなる安堵感を持つものであります。

高専というこの学校システムは、改善の余地があるとすれば、資格問題に尽きると考えます。恐らく、中学段階から、高専システムまでのルートを設定し、且つ、資格を最高学府と同等の、アメリカのいう6-3-3-4システムとは別の人材教育機関が、日本の将来の技術、技能を兼ね備えた人材を輩出しうると考えます。製造業、流通、ソフトウェアの業界の高度技術の必要性は、民間に限らず、防衛問題に於いても、同様であります。技術、技能の分化が意味のない時代に突入したと思います。高専は、そのモデルとなる教育体系を持ちうる可能性が高いと考えられます。人の能力開発は、若年からのほうが巧く行く分野があります。科挙の様な試験もある意味では必要であります。しかし、全員を巻き込む蓋然性は無いのであります。

今の高専の現行システムでは有効な人材を養成する一応の完成教育機関としての認知は困難であります。且つ、地方に過疎化を押しつけた結果、地方の30年前の活力は今や見事に消滅しており、人材そのものを生み出す社会基盤が崩壊しております。恐らく、大学教育についても

同様の事が言えるのであります。社会を指導する人材は、様々な特殊条件の下にしか育成され得ないものであります。単なる科挙制度で指導層を育成するのは、軽薄の誹りを免れません。明治に指導層を活躍せしめた教育は、実地教育、多くの内戦の中で形成されたと確信します。試験のみで選定されたものでは無いという見地より見るべきであります。要するに、侍の世代によって、明治は作られたのであって、試験のみの選別、特に、筆記試験によってのみよって、郷里や、国家のしがらみから遊離した指導層を作ったのは、この明治の中期以降であり、その教育成果は、50年後の敗戦、大正の軍縮、政治の堕落から昭和の経済恐慌に於ける指導層の運営の失敗の原因として、挙げられます。平和国家の腐敗は、第一次大戦において実証済みであり、この時期の指導層の、国民の奢りから転落は始まったと言えます。日露戦役に勝利したと勘違いした指導層と国民の性行に問題があったと言わざるを得ないのであります。気持ちを引き締める事を怠ったのであります。

企業からの教授招聘が東大において成功した例を言われておりましたが、若年段階で、エリート養成をするには、現場と教育機関を接合しながら将官を養成した、嘗ての陸軍、海軍方式は見習うに値すると思います。産学協同の人材育成システムには企業機密の問題もあり、簡単には行きません。私は、国策企業をもって有為の人材育成しないと、いずれ、国家を担う人材は枯渇する運命となると考えます。これが、明らかなのは、戦前の研究レベルが諸外国と比べても、引けを取らない実績を残している事実であります。国家が後ろ盾とならなければ、巨大プロジェクトの遂行も基礎研究も困難であります。特に、環境問題の解決は、超国家的問題であり、国際問題レベルではありません。国防問題も同様であります。国防なくして、国際的話し合い等は成り立ち得ないのが現実国際情勢であります。

現在、国民、皆、指導層も含め、一斉に、何か重要な役割を怠っているのではないかとの疑念を持たざるを得ない。高専という「一つのキーワード」でもって、集まりを成したるの必然性は、単に、高専に限らない時代背景があります。たまたま、全国レベルで集まる機会を得たのは、僥倖であります。今や、国家システムには、外国勢力の汚染があり、権力の行使には、「個人的危害」を防衛出来ない国家システムでは、如何ともしがたい。国家の中に、他の国家の威光や意向をもって行動せざるを得ない仕組みを、許す自由を承認しているのでは、国民一人一人は、何に忠誠を持ち、何を守るのか、彷徨うばかりであります。せいぜい、家族を経済的に防衛するくらいが出来る範囲であります。共同体も崩れ、守るべき共同体は消滅して、危険な社会を形成しているのであります。お祭りも巨大化して、個の存在が薄められております。

高専は、経済の技術面を補完する教育システムであり、そこに、魂を入れる努力をすれば、泣き言を言わず、堂々と、胸を張って生きる若者を養成出来る、日本人の英知を残した教育体系を作るきっかけを与える事が出来る貴重なる遺産と言わなければなりません。15歳から20歳までの5年間を、徹底教育し、学生がそれを受け入れるならば、有為の人材を生みだし得る筈

です。この有効な仕組みに、魅力を無くしているものが、権威、資格問題であります。それさえ解決すれば、如何様にも人材は蝟集するものであります。30年前には、国家的観点から、高専制度を導入した企業努力があったのであり、それは、明治以来の制度の一部の踏襲を画策した画期的制度であったと言えます。

しかしながら、先達のメッセージは、次第に風化し、米国化した学制に次第に国家は、国民感情に流されながら、日本人の固有の感情による教育が出来なくなっている時代にあって、少数でも、そのメッセージを引き続き伝える努力が、伝統となり、この民族国家を運営して、持って、平等互恵の精神を遍く世界に広め、人種偏見を除き、鋭意努力する民族として団結し、その公の下に集い、働き、子孫を養い、人の尊厳を守る者こそが、伝統的日本人であるべきとの信念のもとに、高専という関わりを持った縁により、その結集する意味は大きく、重大なる責任が存するものであります。人は、生まれながらに不完全な存在であり、教育しても、未だに、不完全、未熟であります。理想的教育は自らの国民の手と、歴史伝統によるべきの一言を主張するものです。

日本工科大学連合構想　－高専が生き残る道はこれだ！－

有明高専OB

1．はじめに

資源の少ない日本は今後も工業立国として生存していかなければならない。開発・創造能力が高く、信頼性の高い工業製品を生産するために必要な技術者を育成することは、我が国の永遠の課題である。

しかし、子供達の理科ばなれ傾向が大きくなり、工業国としての日本の将来は危ぶまれている。この対策としては種々の方法が考えられるが、教育制度の改革もその一つである。基本的教育制度である「６・３・３・４制」の他に、ものづくりの楽しさや誇りを持って学べる教育制度が求められる。

一方、高専は日本の高度成長期における工業技術者不足を背景に設立された。設立初期においては、卒業生が大学卒と同等またはそれ以上の技術者として企業や社会に貢献し、その評価は比較的高かった。しかし、30年以上経過した現在、社会情勢の大きな変化により、その存在要求は減少している。すなわち、技術が高度化し、企業における技術開発者・研究者として、高専での教育では不十分となってきた。また、国民の教育レベルの向上と少子化の影響で、高専の人気は低下している。現在では、高専は高等教育機関および研究機関として社会的に認められず、就職が良い工業高校程度にその評価は下がりつつある。

さらに、近年の教育改革により、学校間の競争が激しくなり、競争に負けた高専は淘汰され

ていくと推測される。そこで、各高専は他校に遅れてはなるまいと、学内の合意が不十分であっても、学内に多少ひずみができても専攻科の設置などを急いでいるのが現状である。まさに「高専の危機」である。

以上のように「高専の危機」ではあるが、「技術立国日本の危機」から脱出するためには、我が国の技術者育成の要求はさらに高まっているといえる。そこで、従来の「6・3・3・4制」と異なった、高度な技術者を育成する「工学専門教育制度」を提案する。

この制度では、まず、現在の全高専と2つの技術科学大学を統合した「日本工科大学連合（仮名）」を設立し、さらに拡大させていく構想である。以下に本構想の詳細を述べる。

2．高専制度の特徴と問題点

表1に高専制度の特徴を示す。これらの特徴により、多くの効果が期待されたが、現実には多くの問題点も生じ、期待したほどの教育効果は上がっていないと推測される。各高専および教職員はこれらの問題点を解決するため、種々の改善策を講じ、多大な努力を払ってきた。しかし、これらの問題点に対する抜本的対策は「5年制の高専制度」から「7年制の工学専門教育課程と大学院から構成される工学専門教育制度」への大変革しかないと考える。

表1　高専制度の特徴と問題点

特　徴	期待される効果	問題点	対　策
5年間一貫教育	(1) 受験が無くゆとりある教育ができる (2) 教育年数を7年から5年にできる	学生はだらだらと過ごし、学業に対して意欲的に取り組まない	(1) 途中でハードルを作る (2) ものづくりの楽しさを教える
早期工学教育	15歳から専門教育を教授できる	15歳で自分の適正を判断し、進路を決めても間違いがある	進路変更の道を作る
実践的中堅技術者の育成	多数の技術者を社会に提供できる	技術は高度化しているので開発者・研究者として不十分である	高度な教育課程を設置する
地方都市に設置	(1) 教育費を低くできる (2) 大都市集中を防止できる	刺激が少なく、教官や学生の交流が少ない	教官と学生の移動を容易にする

3．工学専門教育制度と日本工科大学

図1に工学専門教育制度を一般教育制度との関係で示す。また、この制度の軸となる日本工科大学連合の構成も示す。以下に工学専門教育制度の各課程と日本工科大学連合について述べる。

1）工学基礎課程

(a) 高等学校程度の教育に加え、「ものづくりの楽しさ」を学べる科目を取り入れる。

(b) 専門学科には配属せず、各学科の概要やおもしろさを示し、専門課程における学科選択の参考にさせる。

(c) 理系に適正が低いと気がついた学生は普通高校の3年生に編入学させる。また、普通高校や工業高校からも編入生を3年次に受け入れる。

2）工学専門前期課程

(a) 専門学科に配属し、専門教育を開始するが、一般教書科目とくさび形に複合する。

(b) 工学専門の基礎的・原理的な知識を教授し、柔軟な能力を持つ技術者を育成する。

(c) 本課程終了後、エンジニア準1級を授与し、後期課程に進学、他の大学の3年次へ編入学および就職を選択させる。

3）工学専門後期課程

(a) 専門学科を再編成し、より高度および先端技術について教授する。

(b) 卒業研究などを通じ、真理を発見する能力、創造的能力などを育成し、開発能力の高い技術者を育成する。

(c) 本課程終了後、エンジニア1級を授与し、本制度の大学院に進学、他の大学の大学院に進学および就職を選択させる。

4）Uターン制度

工学専門前期課程を終了した社会人を、無試験で工学専門後期課程に入学させる。具体的には以下の経路がある。

(a) 協力企業で1年程度研修した後、Uターンする。(研修生)

(b) 企業に在籍したままUターンする。(留学生)

(c) 企業を退職してUターンする。(再学生)

5）日本工科大学連合

(a) 全国の高専と技科大2校を緩やかに統合する。

(b) 本部を新設し、本大学内の教官や学生の交流を統括する。

4．おわりに

捷案した工学専門教育制度と日本工科大学の実現には、障害が多く、遠い道のりである。しかし、高専および技科大の関係者が夢の実現に向けて力を合わせれば、夢は実現すると確信する。

Dreams come true！

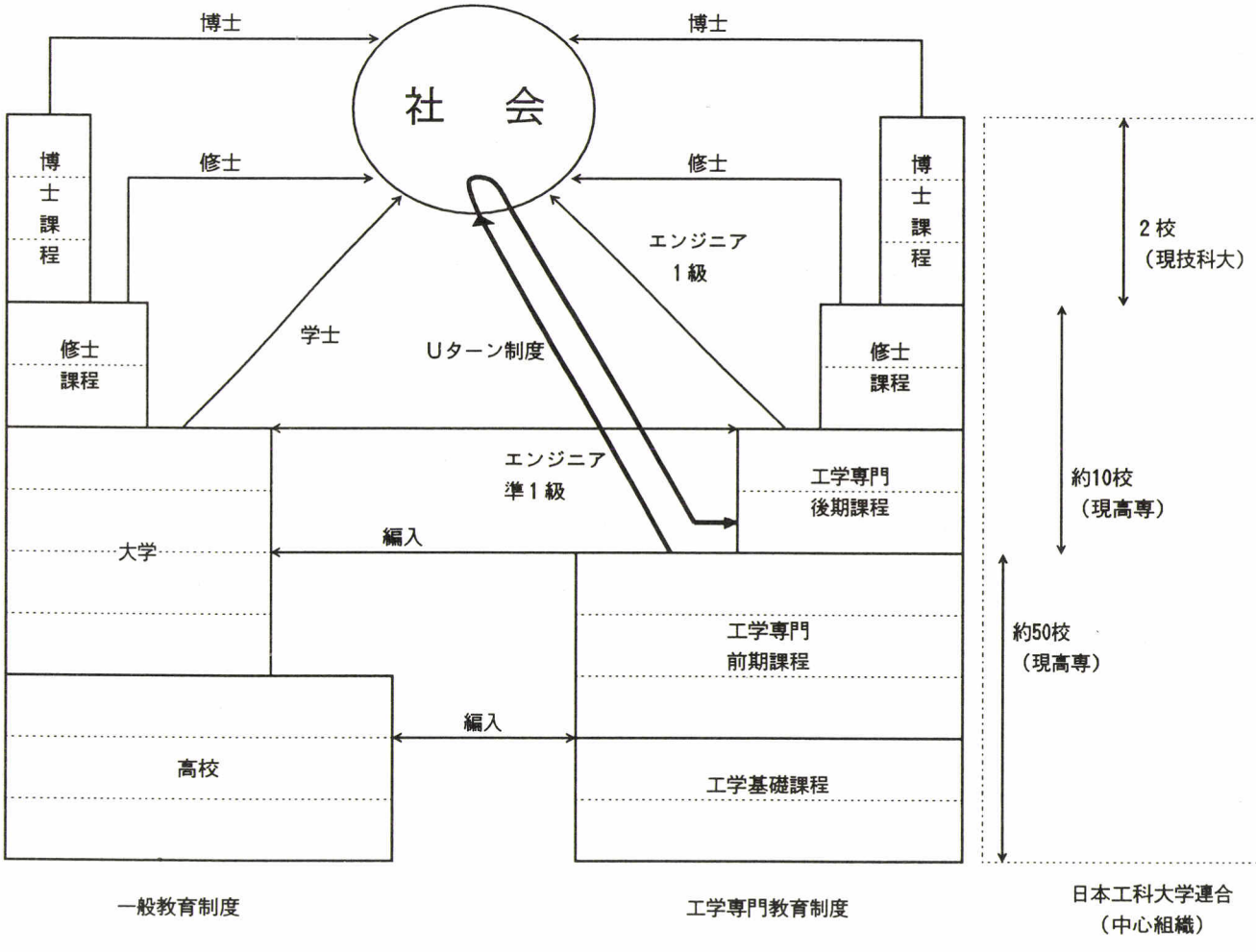


図1　工学専門教育制度と日本工科大学連合

編集後記

「赤とんぼ」その名の通りいつも編集は秋になってしまいます。今年は梅雨が終わらずまた寒い季節を迎えようとしています。しかし、心の灯はいつも赤く灯っています。これを書き上げて九州の同窓会懇談会に向かいます。

昨日は、日本高専学会に出席し歓迎を受けました。全く知らない者同志が、「高専」というキーワードでつながっていきます。出かけた者にしか分かりません。出かけて、味わってください。これこそが私たちの財産です。

高専という響きが心地よくなる気配がしているこの頃です。

お知らせ

ヒューマンネットワーク高専のホームページアドレスが変更になりました。
URL http://www.hnk.or.jp/
メールリンクも新設しました。E-メールお持ちで加入してない方は事務局まで。
members@hnk.or.jp

「ヒューマンネットワーク高専」
赤　と　ん　ぼ

〈3号〉1998年9月9日発行

発　行／ヒューマン・ネットワーク高専
〒386-0403　長野県小県郡丸子町腰越2737番地286
TEL 0268-42-5620　FAX 0268-42-6850
発行人／井　崎　淳一郎
編集人／「赤とんぼ」編集室　宮下和美
制　作／㈱上田ワープロ
印　刷／ＰＯ印刷㈱
定　価　500円(税込)

赤とんぼ　里に降りてきて赤くなる赤とんぼ。山では個々に活動していた個体も、実りとともに里近くにまできて、小麦色のじゅうたんの上を群舞するようになります。
この指と～まれ！

ヒューマンネットワーク高専